

2022年度研修会実施録

公益社団法人 長崎県看護協会
研修センター

目 次

I. 2022 年度研修実施概要	1
------------------	---

II. 2022 年度受講者概要	3
------------------	---

III. 継続研修

研修分類 1. 「生活」と保健・医療・福祉をつなぐ質の高い看護の普及に向けた継続教育

・ 感染管理	5
・ 侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際	6
・ 臨床倫理の基礎～倫理的問題への対処方法を学ぶ～	6
・ 研究計画書を作ってみよう！～看護研究の基礎から学ぶ～	7
・ 放射線に強くなる！放射線診断の基礎と看護への活用	8
・ 感染症の基礎知識と感染対策	8
・ イキイキ中堅ナース	9
・ 基礎から理解！認知症高齢者の正しいアセスメントとケア	10
・ 腎臓に強くなる！慢性腎臓病患者への看護と意思決定支援	10
・ 職業感染の防止の実際(感染管理研修公開)	11
・ 看護に役立つ摂食嚥下リハビリテーション	11
・ 在宅での看取りと多職種連携の実際	12
・ 骨・筋に強くなる！転倒しても骨折しない筋骨格系へのアプローチ	12
・ 看護の現場ですぐに役立つ看護記録～伝わる記録のコツと書き方～	13
・ 基礎から学ぶ 呼吸のメカニズムと人工呼吸器	13
・ 感染管理スキルアップ研修「現場で求められるアウトブレイク時の対応」	14
・ がん化学療法基本の理解と予測・対応	14
・ すぐに役立つ！がん放射線療法看護の実践	15
・ 看護職に求められるリーダーシップ	15
・ 精神科訪問看護	16
・ 現場に役立つ！褥瘡ケア～最新知識に基づいたケアの実際～	18
・ 事例から学ぶ、病棟・外来看護師に必要な周術期看護の基本知識	18
・ 悩み解消！医療現場を取り巻くクレーム対応	19
・ がん患者のセルフケア支援～治療期の生活を支えるために～	19
・ 消化器に強くなる！消化器領域の検査データの見方・活かし方	20
・ 地域包括ケア時代の看護師の役割～退院支援への取り組み～	20
・ コーチングを活かした OJT の際の指導力、研修の設計力を高めよう	21

・脳血管に強くなる！脳血管障害の基礎知識	22
・循環器に強くなる！慢性心不全患者の看護	22
・災害支援ナース育成研修【実務編】	23
・はじめてのプリセプター～新人の一番近くに～【第1回】【第2回】	24
・感染症の最新動向 新興ウイルスと感染予防対策	25
・急性期における家族の思いに寄り添ったケア	25
・終末期における意思決定支援～患者・家族の希望に添った輸液と鎮静	26
・実践に生かす！糖尿病の最新知識とセルフケア支援	26
・循環器に強くなる！循環器領域の検査データの見方・活かし方	27

研修分類 3. 看護管理者が地域包括ケアシステムを推進するための力量形成に継続教育

・地域と病院をつなぐ外来看護～在宅療養支援における外来看護師の役割～	27
------------------------------------	----

研修分類 4. 専門能力開発を支援するための教育体制の充実に向けた継続教育

・看護師のクリニカルラダーを活用した評価の実際	28
-------------------------	----

研修分類 5. 資格認定教育

・認定看護管理者教育課程第1回ファーストレベル 第2回ファーストレベル	29
・認定看護管理者教育課程セカンドレベル	31

IV. その他

・研修受講者終了アンケートを活用したクリニカルラダー導入と活用の実態調査結果	33
--	----

I.2022 年度 研修実施概要

分類 1 「生活」と保健・医療・福祉をつなぐ質の高い看護の普及に向けた継続教育

研 修 名	開催期間	目 標
感染管理	6/23(木)～7/9(土)	感染管理の基礎知識を理解し、感染管理を実践するためのリーダーとしての役割遂行能力を養う。
職業感染防止の実際(感染管理研修公開)	8/9(火)	医療現場で起きる職業感染について理解し、防止するための方策を学ぶ。
侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際(感染管理研修公開)	7/9(土)	器具や処置の感染予防策の実際を学ぶ。
臨床倫理の基礎 ～倫理的問題への対処方法を学ぶ～	7/16(土)	医療・看護における倫理の基礎を理解し、事例を通して倫理的問題に気付くための方法と解決方法を学ぶ。
研究計画書を作ってみよう！ ～看護研究の基礎から学ぶ～	①7/20(水) ②8/3(水) ③8/20(土)	看護研究を理解し、研究遂行に必要な基礎的能力を修得する。臨床現場における自らの興味・関心をもとに選択した看護研究論文の精読を通して研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。
放射線に強くなる！ 放射線診断の基礎と看護への活用	7/23(土)	放射線の基礎・防護・人体影響を学ぶ。
感染症の基礎知識と感染対策	7/28(木)	感染症の基礎知識と感染対策を学ぶ。
イキイキ中堅ナース	7/29(金)～9/3(土)	中堅看護職員として期待される役割を自覚し、その役割を実践するために必要な知識・技術を確認、習得する。
基礎から理解！ 認知症高齢者の正しいアセスメントとケア	8/5(金)	認知症高齢者を正しく理解するためのアセスメントの視点を学 ぶ 。
腎臓に強くなる！慢性腎臓病患者への看護と意思決定支援	8/6(土)	慢性腎臓病の基礎的知識を深め、患者ケアや療養指導について学 ぶ 。
看護に役立つ摂食嚥下リハビリテーション	8/21(日)	患者の QOL 向上に向けた摂食嚥下リハビリテーションの方法を理解 する 。
災害支援ナースの第一歩 ～災害看護の基本的知識～(JNA 収録 DVD 研修)	9/7(水) 8(木)	看護専門職の災害時支援者として必要な基礎知識を習得する。災害支援ナースとしての役割や活動の実際を理解する。
在宅での看取りと多職種連携の実際	9/10(土)	在宅における看取りのケアに必要な知識、多職種と協働した看取りの在り方を学ぶ。
骨・筋に強くなる！ 転倒しても骨折しない筋骨格系へのアプローチ	9/11(日)	運動機能障害を正しく理解し、ロコモ予防のための基礎知識を学ぶ。
看護の現場ですぐに役立つ看護記録 ～伝わる記録のコツと書き方～	9/14(水)	看護記録の重要性を知り、看護実践が見える看護記録を学ぶ。
基礎から学ぶ 呼吸のメカニズムと人工呼吸器	9/15(木)	人工呼吸器を装着している患者ケアの基礎的な知識を学ぶ。
感染管理スキルアップ研修 「現場で求められるアウトブレイク時の対応」	9/17(土)	アウトブレイクの基本対応とアウトブレイクを起こさないためのスキルを学。
がん化学療法基本の理解と予測・対応	9/29(木)	がん化学療法の基礎知識と看護の実際を学ぶ。
すぐに役立つ！がん放射線療法看護の実践	9/30(金)	放射線の基礎から学び、がん放射線療法の看護実践を理解する。
精神科訪問看護	10/1(土)～10/16(日)	訪問看護に従事する看護師が、精神科訪問看護の基本的知識・技術を習得し、精神障がい者に対して、適切な看護が提供できる。
看護職に求められるリーダーシップ	11/9(水)	リーダーシップを発揮するために必要な基本知識を学び、チームでの役割を理解する。
現場に役立つ！褥瘡ケア ～最新知識に基づいたケアの実際～	10/14(金)	褥瘡予防の重要性や褥瘡ケアの具体的な方法を理解する。 し実践に繋ぐ。
事例から学ぶ、病棟・外来看護師に必要な周術期看護の基本知識	10/22(土)	周術期看護の必須知識と看護のポイントを学ぶ。
悩み解消！医療現場を取り巻くクレーム対応	10/27(木)	医療現場で起きているトラブルに関する最近の動向を知り、クレームに向き合う姿勢・技術を学ぶ。
がん患者のセルフケア支援 ～治療期の生活を支えるために～	10/28(金)	治療期にあるがん患者の全人的苦痛を理解し、セルフケア支援における看護について学。
消化器に強くなる！消化器領域の検査データの見方・活かし方	11/5(土)	消化器疾患に関連する検査データの見方、活かし方の基礎知識を学ぶ。
コーチングを活かした OJT の際の指導力、研修の設計力を高めよう	11/12(土) 13(日)	教える技術、教え上手の育て方の技術を深め、教育計画作成ポイントを学ぶ。
地域包括ケア時代の看護師の役割 ～退院支援への取り組み～	11/6(日)	多職種・地域との連携を図り、円滑な退院調整、退院支援が行える必要な知識と役割を学ぶ。
脳血管に強くなる！脳血管障害の基礎知識」	11/18(金)	脳血管障害の基本知識を学び、看護に必要なアセスメントを理解する。
看護師のクリニカルラダーを活用した評価の実際	11/25(金)	看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版)を活用・取り組みの実際と施設における教育体制の評価方法を学ぶ。
循環器に強くなる！慢性心不全患者の看護	12/22(木)	慢性心不全の知識を深め、療養支援の実際を学ぶ。
災害支援ナース育成研修【実務編】	12/3(土)	看護専門職の災害時支援者としての被災地や被災者に対して有効に機能し、災害支援ナースとして他者と協働し、自立的な活動を学ぶ。
はじめてのプリセプター～新人の一番近くに～ 【第 1 回目】	12/8(木) 9(金)	新人看護師の特徴、プリセプターの役割、プリセプターとして求められる能力を理解し、新人看護師教育のビジョンの明確化と関わり方を学ぶ。

はじめてのプリセプター～新人の一番近くに～ 【第2回目】	2023 年 1/12(木)13(金)	新人看護師の特徴、プリセプターの役割、プリセプターとして求められる能力を理解し、新人看護師教育のビジョンの明確化と関わり方を学ぶ。
感染症の最新動向 新興ウィルスと感染予防対策	12/10(土)	感染に対する最新の動向と、感染予防対策を学ぶ。
急性期における家族の思いに寄り添ったケア	12/16(金)	急性期における家族ケアを理解し、家族の状況に合わせた具体時な対応を学ぶ。
終末期における意思決定支援～患者・家族の希望に添った輸液と鎮静	2023 年 1/20(金)	終末期患者、家族の「輸液・鎮静」に関する意思決定を支える看護師の役割を学ぶ。
実践に生かす！糖尿病の最新知識とセルフケア支援	2023 年 1/21(土)	糖尿病について知識を深め、患者ケアや療養指導を学ぶ。
循環器に強くなる！循環器領域の検査データの見方・活かし方	2023 年 2/5(日)	循環器疾患に関連する検査データの見方、活かし方の基礎知識を学ぶ。

分類 3 看護管理者が地域包括ケアシステムを推進するための力量形成に向けた継続教育

研 修 名	開催期間	目 標
医療安全管理者養成 (日本看護協会主催インターネット配信オンデマンド活用)	インターネット 配信期間: 7/1(金)～ 12/16(金) 集合研修: 12/21(水)	医療の質の向上と安全確保を目的とした、医療安全管理業務を遂行するための基本的な知識と実践能力を習得する。
地域と病院をつなぐ外来看護 ～在宅療養支援における外来看護師の役割～	10/8(土)	①外来に求められる看護の専門性と役割について学ぶ。 ②患者のニーズに応じた住み慣れた地域での生活を支えるための専門外来の機能と役割について学ぶ。
看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版 2022	6/15(水)	効率的な業務運営と良質な看護サービスの提供を目的とした看護補助者の業務範囲や教育および就労環境について理解し、自施設における看護補助者体制整備の一助となる。
	6/22(水)	
	7/21(木)	
	8/17(水)	
	10/14(金)	
認知症高齢者の看護実践に必要な知識(JNA 収録 DVD 研修)＊「認知症患者のアセスメントや看護方法等に関する適切な研修」に対応	10/20(木) 21(金)	①認知症高齢者における国の施策や医療の現状を理解する。 ②入院中の認知症高齢者を適切にケアするための基本的な知識を理解する。

分類 4 専門能力開発を支援するための教育体制の充実にに向けた継続教育

研 修 名	開催期間	目 標
看護師のクリニカルラダーを活用した評価の実際	11/25(金)	看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版)を活用・取り組みの実際と施設における教育体制の評価方法を学ぶ。

分類 5 資格認定教育・フォローアップ

研修名	開催期間	教育目的・到達目標
認定看護管理者教育課程 第 1 回 ファーストレベル	5/19(木) ～ 9/25(日)	看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する。 ・ヘルスケアシステムの構造と現状を理解できる。 ・組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析できる。 ・看護管理者の役割と活動を理解し、これからの看護管理者のあり方を考察できる。
認定看護管理者教育課程 第 2 回 ファーストレベル	10/6(木) ～ 2023 年 1/29(日)	
認定看護管理者教育課程セカンドレベル	7/1(金) ～ 12/11(日)	
ファーストレベルフォローアップ① 2021 年度第 2 回ファーストレベル修了者 看護管理実践報告会	6/19(日)	看護管理者として基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。 ・組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら担当部署の目標を設定し、達成に向けた看護管理過程を展開できる。 ・保健・医療・福祉サービスを提供するための質管理ができる。
セカンドレベルフォローアップ 2021 年度セカンドレベル修了者 看護管理実践報告会	9/24(土)	
ファーストレベルフォローアップ② 2022 年度第 1 回ファーストレベル修了者 看護管理実践報告会	2023 年 2/19(日)	

Ⅱ.2022年度受講者概要

1. 令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日

2. 実施研修数 51

3. 分類別研修数

	企画数	実施数	定員	応募者数	受講決定者	受講者数
分類1	38	38	2,090	1,452	1,415	1,341
分類3	8	8	440	448	421	412
分類4	1	1	50	19	18	18
分類5	4	4	139	172	139	139
計	51	51	2,719	2,091	1,993	1,910

4. 講義形態： オンライン 35 / 集合 11 / オンライン併用 4 / オンデマンド+集合 1

5. 会員の受講状況(支部別) ※個人会員含む ※No.5「医療安全管理者養成」除く

会員数	受講数	%
県 南 5,022	773	15.4%
県 央 2,461	650	26.4%
県 北 2,020	275	13.6%
4離島 433	43	9.9%
総 計 9,936	1,741	17.5%

6. 会員施設の受講状況 ※No.5「医療安全管理者養成」除く

施設数	受講施設数	%
県 南 104	47	45.2%
県 央 78	45	57.7%
県 北 51	26	51.0%
4離島 40	9	22.5%
総 計 273	127	46.5%

7.研修概要一覧

研修No.	研修名	日数	定員	受講決定者数
1	認定看護管理者教育課程 第1回 ファーストレベル	20	40	43
2	認定看護管理者教育課程 第2回 ファーストレベル	20	40	45
3	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	31	30	32
4	感染管理	4	40	41
5	医療安全管理者養成(日本看護協会主催インターネット配信オンデマンド活用)集合研修	35時間+ 集合1日 5時間	60	51
6	職業感染防止の実際(感染管理研修公開)	0.5	20	18
7	侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際(感染管理研修公開)	1	20	14
8	臨床倫理の基礎～倫理的問題への対処方法を学ぶ～	1	60	43
9	研究計画書を作ってみよう！～看護研究の基礎から学ぶ～	3	30	24
10	放射線に強くなる！放射線診断の基礎と看護への活用	0.5	60	49
11	感染症の基礎知識と感染対策	0.5	60	43
12	イキイキ中堅ナース	6	40	26
13	基礎から理解！認知症高齢者の正しいアセスメントとケア	1	60	67
14	腎臓に強くなる！慢性腎臓病患者への看護と意思決定支援	1	60	37
15	看護に役立つ摂食嚥下リハビリテーション	1	60	41
16	災害支援ナースの第一歩～災害看護の基本的知識～(JNA収録DVD研修)	2	60	29
17	在宅での看取りと多職種連携の実際	1	60	28
18	骨・筋に強くなる！転倒しても骨折しない筋骨格系へのアプローチ	1	60	28
19	看護の現場ですぐに役立つ看護記録～伝わる記録のコツと書き方～	1	60	47
20	基礎から学ぶ 呼吸のメカニズムと人工呼吸器	1	60	43
21	感染管理スキルアップ研修「現場で求められるアウトブレイク時の対応」	1	60	29
22	がん化学療法基本の理解と予測・対応	1	60	28
23	すぐに役立つ！がん放射線療法看護の実践	1	60	14
24	精神科訪問看護	4	30	5
25	看護職に求められるリーダーシップ	1	60	33
26	地域と病院をつなぐ外来看護－在宅療養支援における外来看護師の役割－	1	60	31
27	現場に役立つ！褥瘡ケア～最新知識に基づいたケアの実際～	1	60	54
28	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修改訂版2022	1	60	60
29	認知症高齢者の看護実践に必要な知識(JNA収録DVD研修) ＊「認知症患者のアセスメントや看護方法等に関する適切な研修」に対応	2	60	65
30	事例から学ぶ、病棟・外来看護師に必要な周術期看護の基本知識	0.5	50	26
31	悩み解消！医療現場を取り巻くクレーム対応	1	60	20
32	がん患者のセルフケア支援～治療期の生活を支えるために～	1	60	16
33	消化器に強くなる！消化器領域の検査データの見方・活かし方	0.5	60	40
34	コーチングを活かしたOJTの際の指導力、研修の設計力を高めよう	1.5	60	25
35	地域包括ケア時代の看護師の役割～退院支援への取り組み～	1	60	41
36	脳血管に強くなる！脳血管障害の基礎知識	1	60	46
37	看護師のクリニカルラダーを活用した評価の実際	1	50	18
38	循環器に強くなる！慢性心不全患者の看護	1	60	57
39	災害支援ナース育成研修【実務編】	1	60	51
40	はじめてのプリセプター～新人の一番近くに～【第1回目】	1.5	60	39
41	感染症の最新動向 新興ウィルスと感染予防対策	1	60	58
42	急性期における家族の思いに寄り添ったケア	1	60	34
43	はじめてのプリセプター～新人の一番近くに～【第2回目】	1.5	60	75
44	終末期における意思決定支援～患者・家族の希望に添った輸液と鎮静	1	60	48
45	実践に生かす！糖尿病の最新知識とセルフケア支援	1	60	41
46	循環器に強くなる！循環器領域の検査データの見方・活かし方	1	60	57
47	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修改訂版2022	1	50	55
48	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修改訂版2022	1	50	53
49	2021年度セカンドレベル看護管理実践報告	0.5	29	19
50	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修改訂版2022	1	50	54
51	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修改訂版2022	1	50	52

8.長崎県委託事業

No.	研修会名	日数	定員	受講者数
1	訪問看護師養成講習会(eラーニング併用)	集合8日／実習3日	30	17
2	長崎県介護施設等の看護実務者研修	3	50	43
3	長崎県看護職員認知症対応力向上研修	3	60	60

研修名	感染管理			開催日	2022 年 6 月 23 日～8 月 9 日																															
講 師	プログラム参照			企画	研修センター																															
目 的	感染管理の基礎知識を理解し、感染管理を実践するためのリーダーとしての役割遂行能力を養う。																																			
目 標	1) 感染管理者の役割と必要な専門的知識が理解できる。 2) 感染管理に必要な感染症の基礎知識が理解できる。																																			
対 象	施設内で感染管理の任にある者、および準ずる者。																																			
受講者概要	<table><tr><td>応募者： 41 人</td><td>受講者 41 人</td><td>アンケート回答者数：37 人</td><td>回答率:90.2%</td></tr><tr><td>職種</td><td colspan="3">保健師： 0 人、助産師： 0 人、看護師： 37 人</td></tr><tr><td>年齢</td><td colspan="3">20 歳代:2 人、30 歳代： 4 人、40 歳代： 19 人、50 歳代： 11 人、60 歳代:1 人</td></tr><tr><td>経験年数</td><td colspan="3">3 年未満:0 人、3-5 年:1 人、6-10 年:3 人、11-20 年:12 人、21 年以上:21 人</td></tr><tr><td>職場の施設</td><td colspan="3">医療施設:35 人、福祉施設 1 人</td></tr><tr><td>職場での立場</td><td colspan="3">看護部長:0 人、副看護部長:0 人、師長:9 人、主任:12 人、スタッフ:15 人</td></tr><tr><td>感染管理役割</td><td colspan="3">病棟感染管理、コロナウィルス対応、看護部感染管理部会、</td></tr></table>						応募者： 41 人	受講者 41 人	アンケート回答者数：37 人	回答率:90.2%	職種	保健師： 0 人、助産師： 0 人、看護師： 37 人			年齢	20 歳代:2 人、30 歳代： 4 人、40 歳代： 19 人、50 歳代： 11 人、60 歳代:1 人			経験年数	3 年未満:0 人、3-5 年:1 人、6-10 年:3 人、11-20 年:12 人、21 年以上:21 人			職場の施設	医療施設:35 人、福祉施設 1 人			職場での立場	看護部長:0 人、副看護部長:0 人、師長:9 人、主任:12 人、スタッフ:15 人			感染管理役割	病棟感染管理、コロナウィルス対応、看護部感染管理部会、				
応募者： 41 人	受講者 41 人	アンケート回答者数：37 人	回答率:90.2%																																	
職種	保健師： 0 人、助産師： 0 人、看護師： 37 人																																			
年齢	20 歳代:2 人、30 歳代： 4 人、40 歳代： 19 人、50 歳代： 11 人、60 歳代:1 人																																			
経験年数	3 年未満:0 人、3-5 年:1 人、6-10 年:3 人、11-20 年:12 人、21 年以上:21 人																																			
職場の施設	医療施設:35 人、福祉施設 1 人																																			
職場での立場	看護部長:0 人、副看護部長:0 人、師長:9 人、主任:12 人、スタッフ:15 人																																			
感染管理役割	病棟感染管理、コロナウィルス対応、看護部感染管理部会、																																			
研修内容	<table><tr><td>回</td><td>日</td><td>時</td><td>内 容</td><td>講 師</td></tr><tr><td rowspan="3">1</td><td rowspan="3">6/23 (木)</td><td>13:20</td><td>オリエンテーション</td><td rowspan="3">古本 朗嗣 長崎大学病院</td></tr><tr><td>13:30 ～ 16:30</td><td>感染症の基礎知識と感染対策 ・院内感染症対策について・新型コロナウイルス感染症 ・結核感染症対策、インフルエンザ対策について</td></tr><tr><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">6/24 (金)</td><td>9:30～ 12:00</td><td>感染管理とマネジメント ・リーダーの資質 ・感染管理とは ・現状と問題点 ・感染対策の考え方 ・感染対策予防において看護師の役割 等</td><td rowspan="2">金澤 美弥子 感染管理 認定看護師</td></tr><tr><td>13:00 ～ 15:30</td><td>感染予防対策の基本 ・標準予防策・感染経路別予防対策 ・手洗いの基本 ・防御具の基準と使用法・消毒、滅菌の基本</td><td>森 英恵 感染管理 認定看護師</td></tr><tr><td>3</td><td>7/9 (土)</td><td>9:30 ～ 15:30</td><td>侵襲的な器具や処置の感染予防策の実践 ・血流感染予防対策 ・尿路感染予防対策 ・人工呼吸器関連肺炎予防対策・手術部位感染予防対策</td><td>福井 良枝 感染管理 認定看護師</td></tr><tr><td>4</td><td>8/9 (火)</td><td>13:30 ～ 16:30</td><td>職業感染防止の実践 ・職業感染防止の背景・針刺し防止対策 ・接触者対策 ・患者環境と感染予防 ・基本ケアと感染予防</td><td>岡田 美佐子 感染管理 認定看護師</td></tr></table>						回	日	時	内 容	講 師	1	6/23 (木)	13:20	オリエンテーション	古本 朗嗣 長崎大学病院	13:30 ～ 16:30	感染症の基礎知識と感染対策 ・院内感染症対策について・新型コロナウイルス感染症 ・結核感染症対策、インフルエンザ対策について	2	6/24 (金)	9:30～ 12:00	感染管理とマネジメント ・リーダーの資質 ・感染管理とは ・現状と問題点 ・感染対策の考え方 ・感染対策予防において看護師の役割 等	金澤 美弥子 感染管理 認定看護師	13:00 ～ 15:30	感染予防対策の基本 ・標準予防策・感染経路別予防対策 ・手洗いの基本 ・防御具の基準と使用法・消毒、滅菌の基本	森 英恵 感染管理 認定看護師	3	7/9 (土)	9:30 ～ 15:30	侵襲的な器具や処置の感染予防策の実践 ・血流感染予防対策 ・尿路感染予防対策 ・人工呼吸器関連肺炎予防対策・手術部位感染予防対策	福井 良枝 感染管理 認定看護師	4	8/9 (火)	13:30 ～ 16:30	職業感染防止の実践 ・職業感染防止の背景・針刺し防止対策 ・接触者対策 ・患者環境と感染予防 ・基本ケアと感染予防	岡田 美佐子 感染管理 認定看護師
回	日	時	内 容	講 師																																
1	6/23 (木)	13:20	オリエンテーション	古本 朗嗣 長崎大学病院																																
		13:30 ～ 16:30	感染症の基礎知識と感染対策 ・院内感染症対策について・新型コロナウイルス感染症 ・結核感染症対策、インフルエンザ対策について																																	
		2	6/24 (金)		9:30～ 12:00	感染管理とマネジメント ・リーダーの資質 ・感染管理とは ・現状と問題点 ・感染対策の考え方 ・感染対策予防において看護師の役割 等	金澤 美弥子 感染管理 認定看護師																													
13:00 ～ 15:30	感染予防対策の基本 ・標準予防策・感染経路別予防対策 ・手洗いの基本 ・防御具の基準と使用法・消毒、滅菌の基本			森 英恵 感染管理 認定看護師																																
3	7/9 (土)	9:30 ～ 15:30	侵襲的な器具や処置の感染予防策の実践 ・血流感染予防対策 ・尿路感染予防対策 ・人工呼吸器関連肺炎予防対策・手術部位感染予防対策	福井 良枝 感染管理 認定看護師																																
4	8/9 (火)	13:30 ～ 16:30	職業感染防止の実践 ・職業感染防止の背景・針刺し防止対策 ・接触者対策 ・患者環境と感染予防 ・基本ケアと感染予防	岡田 美佐子 感染管理 認定看護師																																
まとめ	プログラム 4 日間はすべて zoom を用いたオンラインで実施した。内容は、基本知識と最新情報、感染対応予防策については丁寧な説明で解かりやすく受講者アンケートでは、理解度・満足度・活用度ともに 75-80%の割合で高い評価となっている。受講者は、感染管理役割と指導者、師長であった。新型コロナウイルス感染症が続く中、受講者は日々の感染対策に追われつつの受講であった。 研修について ■できる ■ややできる ■ふつう <table><tr><td>活用度</td><td>44%</td><td>36%</td><td>20%</td></tr><tr><td>満足度</td><td>44%</td><td>38%</td><td>18%</td></tr><tr><td>理解度</td><td>41%</td><td>45%</td><td>14%</td></tr></table>						活用度	44%	36%	20%	満足度	44%	38%	18%	理解度	41%	45%	14%																		
活用度	44%	36%	20%																																	
満足度	44%	38%	18%																																	
理解度	41%	45%	14%																																	

研修名	侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際 (感染管理研修公開)			開催日	2022 年 7 月 9 日	
講 師	福井良枝 (長崎労災病院)			企 画	教育委員会	
目 標	器具や処置の感染予防策の実際を学ぶ。					
受講者 概 要	応募者 : 14 人	受講者 : 14 人	アンケート回答者数 : 13 人	回答率 : 92. 9%		
	職種	保健師 : 0 人、助産師 : 0 人、看護師 : 13 人、准看護師 : 0 人				
	臨床経験年数	3 年未満 : 0 人、3~5 年 : 4 人、6~10 年 : 2 人、11~20 年 : 3 人、21 年以上 : 4 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ : 2 人、Ⅱ : 2 人、Ⅲ : 5 人、Ⅳ : 2 人、Ⅴ : 0 人、不明 : 2 人				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、①血流感染対策 ②人工呼吸器関連肺炎対策 ③尿路感染対策 ④手術部位感染対策であった。それぞれの項目に対して概要、リスク因子、予防策にまとめられていた。					
評 価	受講者 13 名のうち、「理解度」「満足度」では「できる・ややできる」が 92.3%「活用度」では、「できる・ややできる」が 100%であった。研修全体の学び・感想では「新しい知識が得られた」「最新の材料も踏まえて説明があり勉強になった」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 15.4%であった。トラブル発生の内容は、「始まった瞬間音声聞こえなくなった」「カメラが作動出来なかったが、最後まで視聴できた」であった。					

研修名	臨床倫理の基礎～倫理的問題への対処方法を学ぶ～			開催日	2022 年 7 月 16 日	
講 師	中尾久子（第一薬科大学）			企 画	教育委員会	
目 標	医療・看護における倫理の基礎を理解し、事例を通して倫理的問題に気付くための方法と解決方法を学ぶ。					
受講者 概 要	応募者：43 人	受講者：38 人	アンケート回答者数：34 人	回答率：89.5%		
	職種	保健師：2 人、助産師：0 人、看護師：32 人、准看護師：1 人				
	臨床経験年数	3～5 年：1 人、6～10 年：4 人、11～20 年：15 人、21 年以上：14 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：0 人、Ⅱ：6 人、Ⅲ：15 人、Ⅳ：3 人、Ⅴ：2 人、不明：8 人				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、看護倫理について、倫理的問題事例へのアプローチ方法、看護ケアに係る倫理についての講義内容であった。講義後に、5 つの事例（①紙おむつで洗髪②看護室内で食事③患者情報をチーム内で情報共有④夜間に排泄の訴えを繰り返す患者への対応⑤医療チーム間で倫理に関する考え方をどう調整していくか）においてGWを実施。午後からのGWにおいては講師より指名をうけた 2G が発表を行った。					
評 価	受講者 38 名のうち「理解度」「活用度」では、「できる・ややできる」が 88.2%であった。「満足度」では、「できる・ややできる」が 94.1%であった。研修全体の学び・感想では「看護倫理について学ぶことが出来て、臨床とのすり合わせができた」「GW もあって、事例を通して考えられたので良かった」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。しかし、2.9%は満足度について「ややできない」と回答しており、「Zoom 進行トラブルがないようにしてほしい」という意見があった（進行中にはトラブルの指摘がなかったため詳細は不明）。受講者についてもスマートフォン使用者ではネット環境の検討が必要である。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 17.6%であった。トラブル発生の内容は、「自宅受講でフリーズした」「音声・マイクの一時的な不具合」であった。					

研修名	研究計画書を作ってみよう！ ～看護研究の基礎から学ぶ～	開催日	第1回 2022年7月20日 第2回 2022年8月3日 第3回 2022年8月20日
講師	大重育美（長崎県立大学）	企画	教育委員会
目標	1. 看護研究の遂行過程を理解する。 2. 看護研究における倫理と倫理的配慮を理解する。 3. 研究に必要な研究論文を的確に検索できる技術を習得する。 4. 論文の精読を通して研究課題を焦点化する。 5. 焦点化した研究課題を解明するための実現可能な研究計画書を作成する。		
受講者概要	受講者 24 名の内、出席者 第1回 23 人、第2回 23 人、第3回 17 人		
	応募者：24 人	受講者：24 人	アンケート回答者数：17 人 回答率：70.8%
	職種	保健師：1 人、助産師：0 人、看護師：16 人、准看護師：0 人	
	臨床経験年数	3 年未満：3 人、3～5 年：3 人、6～10 年：1 人、11～20 年：4 人、21 年以上：6 人	
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：3 人、Ⅱ：6 人、Ⅲ：2 人、Ⅳ：0 人、Ⅴ：2 人、不明：4 人	
研修内容	本研修は計 3 回の研修であった。全日程 Zoom を使用したオンラインで実施した（第 2・3 回は対面予定であったが、感染拡大によりオンラインへ変更となった）。 研修内容は、第 1 回は看護研究の基礎知識の講義であった。第 2 回は文献検索と先行研究分析に関する講義後に、講師が準備した文献に対する文献クリティークに関する GW であった。第 1 回と 2 回の学習内容を踏まえ、課題として研究計画書を作成し、第 3 回は受講者が作成した研究計画書の発表・意見交換であった。発表・意見交換は作成した資料を画面共有して行われた。また、個々の研究計画書に対し一人ずつ個別指導が行われた。さらに、各研修の昼休憩時、終了後に希望者のみ研究に関する個別指導の時間を設けた。		
評価	事後アンケートは第 3 回終了後に実施した。第 3 回の受講者は 17 名であった。受講者 17 名のうち、「理解度」「満足度」「活用度」ではすべての受講者が「できる・ややできる」と回答していた。研修全体の学び・感想では「看護研究計画書の作成の流れが整理できた」「文献検索の方法が良く理解できた」「看護研究は学生の時以来で難しいと感じていたが、研修によりなんとなく出来そうだなと感ずることができた」「今まで何回か看護研究を行ってきたが、研究計画書がうまくかけず苦労していた。今回の研修で改めて計画書の書き方を学ぶことができた」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 35.3%であった。トラブル発生の内容は、「画面共有が難しかった」「Zoom がはじめてで画面共有やチャットがうまく活用できなかった」等であった。本研修では受講者が所持する資料を画面共有しながら発表する形式をとった。受講者の中には画面共有がうまくできずに時間を要する人もいた。しかし、すべての受講者が何らかの形で資料を共有することができていた。ただ、受講者の中には「画面共有することを事前に知らせてほしかった」と述べるものもいたため、次回からは画面共有の方法を事前に提示するなどの工夫が必要である。		
	研修について ■ できる ■ ややできる ■ ふつう ■ ややできない ■ できない 0% 20% 40% 60% 80% 100% 理解度 47.1% 52.9% 満足度 64.7% 35.3% 活用度 82.4% 17.6%		

研修名	放射線に強くなる！ 放射線診断の基礎と看護への活用		開催日	2022 年 7 月 23 日
講 師	山田裕美子(長崎大学病院)大石景子(長崎医療センター)		企 画	教育委員会
目 標	放射線の基礎・防護・人体影響を学ぶ。			
受講者 概 要	応募者：49 人	受講者：42 人	アンケート回答者数：39 人	回答率：92.9%
	職種	保健師：1 人、助産師：0 人、看護師：37 人、准看護師：1 人		
	臨床経験年数	3 年未満 5 人、3～5 年：3 人、6～10 年：5 人、11～20 年：13 人、21 年以上：13 人		
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：4 人、Ⅱ：7 人、Ⅲ：13 人、Ⅳ：1 人、Ⅴ：3 人、不明：11 人		
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、臨床現場で働く看護師に最低限必要な放射線の基礎知識であった。放射線の種類や、被ばくについて詳しく説明され、実際に患者さんから放射線検査について質問があった場合の基礎知識を受講者へ施設ではどのようにしているか質問しながら行われた。患者さんが抱く、放射線に関しての検査や治療への疑問や不安を解消し納得したうえで実施できるよう支援することが看護師の役割であると説明された。			
評 価	受講者 39 名のうち「理解度」「満足度」では、「できる・ややできる」が 65%であった。「活用度」は高く、77%であった。研修全体の学び・感想では「放射線の基礎的なことが聞けて良かった。」「患者さんへ説明するときに正しい知識をもって説明することができる」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。しかし、9%は「ややできない」と回答しており、「放射線被ばくの考え方や線量の理解が難しかった」「画像診断についてもっと説明してほしいかった」という意見があった。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 10%であった。トラブル発生の内容は、音声の一部聞き取れないことであった。			

研修名	感染症の基礎知識と感染対策		開催日	2022 年 7 月 28 日
講 師	古本 朗嗣(長崎大学病院感染症医療人育成センター)		企 画	研修センター
目 標	感染症の基礎知識と感染対策を学ぶ			
受講者 概 要	応募者：43 人	受講者：38 人	アンケート回答者数：37 人	回答率：97.4%
	職種	保健師：0 人、助産師：0 人、看護師：34 人、准看護師：2 人、その他:1 人		
	臨床経験年数	3 年未満 3 人、3～5 年：1 人、6～10 年：5 人、11～20 年：18 人、21 年以上：10 人		
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：2 人、Ⅱ：6 人、Ⅲ：10 人、Ⅳ：3 人、Ⅴ：1 人、不明：15 人		
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、感染症の定義から、診方では、院内不明熱と医療関連感染症について事例を示し、考えられる感染症に繋いだ。さらに、新型コロナウイルス感染症、クラスター発生時の対応として、対策を講じて置くこと、迅速に対策本部を設置し、役割分担、業務分担を担い施設全体として取り組む体制を作りについて、発生時の対応から心的ストレス、ワクチン接種の予防効果と後遺症までデーターを基に説明された。			
評 価	受講者 37 名のうち「理解度」「満足度」では、「できる・ややできる」が 83.8%・81%であった。「活用度」は高く、86.4%であった。研修全体の学び・感想では「内容がわかりやすく看護業務、委員会活動に生かしていきたい」「実際の業務と照らし合わせて聞くことができた」「自施設のクラスターが発生した場合に職場全員で情報共有し慌てずに対応していきたい」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。 オンライン研修については、トラブル発生や困りごとについてはなかった。オンライン研修受講環境が整ってきたことが理解できる。自施設でもクラスターや感染者が増える中、オンラインだから受講できたとの声も寄せられた。			

研修名	イキイキ中堅ナース			開催日	2022 年 7 月 29 日～9 月 3 日																			
講 師	プログラム参照			企画	研修センター																			
目 的	中堅看護職員として期待される役割を自覚し、その役割を実践するために必要な知識・技術を確認・習得する。																							
目 標	1) 看護実践者としてスタッフに対しモデル的役割が果たせ、看護技術の指導ができる。 2) 新人看護職員に日常生活援助技術を安全・確実・効率的に実施できるよう指導ができる。 3) 新人看護職員・実地指導者・プリセプターの支援ができる。																							
対 象	経験5年以上の看護師、助産師、保健師（管理者は除く）																							
受講者概要	応募者:26 人		受講者 26 人		アンケート回答者数：26 人		回答率:100%																	
	職種		保健師：0 人、助産師：0 人、看護師：26 人																					
	年齢		20 歳台：8 人、30 歳台:10 人、40 歳台：7 人、50 歳台：1 人																					
	施設		医療施設:25 人、福祉施設:1 人																					
	経験年数		5 年:2 人、6～10 年:12 人、11～15 年:9 人、16 年以上:3 人																					
研修内容	Zoom を用いたオンライン研修で実施した。																							
	回	日 時		内 容			講 師																	
	1	7/29 (金)	13:00 15:30	中堅ナースへの期待 ・専門職とはキャリアとは・中堅看護師に求められる役割			飯野英親 福岡看護 大学																	
	2	7/30 (土)	9:30～ 15:30	中堅ナースのキャリア支援～自己の看護人生を描く～ ・中堅ナースに必要なリーダーシップ ・自己の看護の原点を振り返る ・キャリアデザインとは ・今後の自己のキャリア発達を実現するために																				
	3	8/24	13:30 16:00	安全で良質な看護を提供するために① 今だから見直そう～感染対策とリーダーシップ～ ・専門的看護実践 ・多職種を含めた部署における感染管理能力			中村みさ 長崎医療 センター																	
	4	8/25 (木)	9:30～ 15:30	安全で良質な看護を提供するために②～チームで作る安全文化～ ・組織における中堅ナースの位置づけおよび役割確認 ・看護手順の意義及び作成の根拠、効果的活用法 ・リスクマネジメントの視点で看護手順をとらえる			柴原陽子 長崎北病 院																	
	5	9/2 (金)	9:30～ 15:30	中堅ナースだからできる人材育成 ・「新人看護職員研修ガイドライン」の考え方 ・新人看護職員研修における各担当者の役割・院内教育計画と新人看護職員研修体制 ・新人看護職員の特徴と支援体制・新人を育てる風土づくり等 ・新人看護師・実地指導者、プリセプターの支援の実際			江藤節代 NPO 法人 日本看護 キャリア 開発セン ター																	
	6	9/3 (土)	9:30～ 15:30 ＊公開	人材育成に活かすコーチングスキル ・コーチングの概要、構造、コーチングスキルの実際（演習） ・人材育成に役立つコーチング																				
	本年度のプログラムは、看護実践者モデルとなるために必要な技術となる根拠を持った指導に、感染対策とリーダーシップを追加し、中堅ナースに必要な知識、技術の構成し、学びを深めた。受講者の 6 割は職務命令での参加、4 割は自身の役割発揮、キャリアアップの受講動機であった。受講者は、すべての科目において、理解度 91%、満足度 88%、活用度は 91%と高い評価であり、中堅ナースとしての姿勢、役割、技術、自己成長に繋がった。オンライン研修については、講義、グループワークもスムーズで充実した研修になったと評価できる。																							
	研修について ■ できる ■ ややできる ■ ふつう ■ ややできない ■ できない <table><tr><td>活用度</td><td>58%</td><td>33%</td><td>3%</td><td>3%</td><td>2%</td></tr><tr><td>満足度</td><td>60%</td><td>28%</td><td>6%</td><td>2%</td><td>3%</td></tr><tr><td>理解度</td><td>58%</td><td>33%</td><td>5%</td><td>2%</td><td>2%</td></tr></table>							活用度	58%	33%	3%	3%	2%	満足度	60%	28%	6%	2%	3%	理解度	58%	33%	5%	2%
活用度	58%	33%	3%	3%	2%																			
満足度	60%	28%	6%	2%	3%																			
理解度	58%	33%	5%	2%	2%																			

研修名	基礎から理解！ 認知症高齢者の正しいアセスメントケア			開催日	2022 年 8 月 5 日
講 師	飯山有紀 (熊本保健科学大学キャリア教育研修センター)			企 画	教育委員会
目 標	認知症高齢者を正しく理解するためのアセスメントの視点を学ぶ。				
受講者 概 要	応募者：67 人		受講者：63 人	アンケート回答者数：62 人	回答率：98.4%
	職種		保健師：0 人、助産師：0 人、看護師：61 人、准看護師：1 人		
	臨床経験年数		3 年未満：8 人、3～5 年：11 人、6～10 年：10 人、11～20 年：16 人、21 年以上：17 人		
	クリニカルラダーレベル		Ⅰ：8 人、Ⅱ：11 人、Ⅲ：16 人、Ⅳ：8 人、Ⅴ：0 人、不明：19 人		
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、高齢者の理解、認知症とはくらしの障害であること、認知症とは脳の病気であること、認知機能障害と BPSD、認知症への深い理解、認知症の最新情報、認知症と薬剤の知識、認知症高齢者に対する倫理的配慮と意思決定支援についての講義であった。疾患の説明後、実際の患者さんの事例についての対応策を講義して頂いた。その中で、病棟の環境音について、実際の音声を流し、環境音を知ること、私たちが直ちにできるケア・対処法について学んだ。				
評 価	受講者 63 名のうち「理解度」では、「できる・ややできる」が 96.7%、「満足度」では、「できる・ややできる」が 95.2%、「活用度」では、「できる・ややできる」が 93.5%であった。研修全体の学び・感想では「認知症の方との関わり方や看護について学ぶことができた」「患者の反応・行動を観察することの重要性を学ぶことができた」「症例があり、とてもわかりやすかった」「今回の研修を今後の看護に活かすことができる」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。「ややできない」「できない」の回答者はいなかった。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 4.8%であった。トラブル発生の内容は、「VTR が見れなかった」「オンライン研修が初めてでチャットがうまくできなかった」「Zoom が初めてで戸惑った」であった。				

研修名	腎臓に強くなる！ 慢性腎臓病患者への看護と意思決定支援		開催日	2022 年 8 月 6 日
講 師	山中美和子 (独立行政法人地域医療機能推進機構 諫早総合病院)		企 画	教育委員会
目 標	慢性腎臓病の基礎知識を深め患者や療養指導について学ぶ。			
受講者 概 要				
	応募者：37 人	受講者：36 人	アンケート回答者数：36 人	回答率：100%
	職種	保健師：3 人、助産師：1 人、看護師：30 人、准看護師：2 人		
	臨床経験年数	3 年未満：6 人、3～5 年：6 人、6～10 年：8 人、11～20 年：7 人、21 年以上：9 人		
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：6 人、Ⅱ：11 人、Ⅲ：6 人、Ⅳ：4 人、Ⅴ：1 人、不明：8 人		
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、①慢性腎臓病とは ②腎代替療法（血液透析・腹膜透析・腎移植）③保存的腎臓療法 ④ACP ⑤慢性腎臓病をもつ患者の心理であった。腹膜透析については、ビデオで実際の場面を視聴しながらの講義であった。			
評 価	受講者 36 名のうち「理解度」では「できる・ややできる」が 83.4%、「満足度」では「できる・ややできる」が 80.6%、「活用度」では「できる・ややできる」が 83.3%であった。研修全体の学び・感想では「透析看護も必要だと考えさせられた」「具体的な内容で明日からの実践に役立つ研修でした」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。しかし、「満足度」で 2.8%が「ややできない」と回答しており、「資料にないスライドがあり資料にのせて欲しかった」という意見があった。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 2.8%であった。トラブル発生の内容は、「講義中のビデオが視聴できなかった」であった。			

研修名	職業感染防止の実際(感染管理公開)			開催日	2022 年 8 月 9 日
講 師	岡田美佐子 (愛野記念病院)			企 画	研修センター
目 標	医療現場で起きる職業感染について理解し、防止するための方策を学ぶ。				
受講者 概 要					
	応募者：人	受講者：15 人	アンケート回答者数：16 人	回答率：106.7% (*)	
	職種	保健師：0 人、助産師：0 人、看護師：15 人、准看護師：0 人			
	臨床経験年数	3 年未満：0 人、3～5 年：3 人、6～10 年：3 人、11～20 年：5 人、21 年以上：5 人			
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：0 人、Ⅱ：7 人、Ⅲ：4 人、Ⅳ：2 人、Ⅴ：1 人、不明：2 人			
	(*)重複回答 1 名のため回答率が 100%を超えている				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。開催日講師都合にて変更した。 研修内容は、職業感染の定義(労働者の感染管理)から、感染防止策(血液媒介性感染症、結核、新型コロナウイルス感染症)であった。				
評 価	受講 15 名のうち、「理解度」「満足度」では「できる・ややできる」が 87.5%「活用度」では、「できる・ややできる」が 75.1%であった。研修全体の学び・感想では「コロナ一色の社会情勢だが、他の感染症について学び知識の整理ができた」「スタッフ教育に繋がりたい」とあり職業感染予防の目標に繋がった。				

研修名	看護に役立つ摂食嚥下リハビリテーション			開催日	2022 年 8 月 21 日
講 師	山口美菜子 (地方独立行政法人 長崎みなとメディカルセンター)			企 画	教育委員会
目 標	患者の QOL 向上に向けた摂食嚥下リハビリテーションの方法を理解する。				
受講者 概 要					
	応募者：41 人	受講者：39 人	アンケート回答者数：38 人	回答率：97.4%	
	職種	保健師：0 人、助産師：0 人、看護師：35 人、准看護師：1 人、その他：2 名			
	臨床経験年数	3 年未満:6 人、3～5 年：5 人、6～10 年：5 人、11～20 年:11 人、21 年以上：11 人			
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：8 人、Ⅱ：5 人、Ⅲ：3 人、Ⅳ：4 人、Ⅴ：2 人、不明：16 人			
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、摂食嚥下のプロセスや種類、脳神経関係などの概要、摂食嚥下障害の評価方法や検査・診断、訓練方法や摂食時のポジショニング、栄養管理やリスク管理について動画を交えながら説明された。嚥下評価方法や訓練方法は、臨床で取り入れ実践しやすい方法や嚥下障害を起こしにくいポジショニングの方法など細かく説明して頂いた。				
評 価	受講者 38 名のうち「理解度」では、「できる・ややできる」が 84.2%であった。「満足度」では「できる・ややできる」が 57.9%、「活用度」では「できる・ややできる」は高く、89.5%であった。研修全体の学び・感想では「マニュアル作成するヒントになった」「全体的に分かりやすく今後の活動に活かして行きたい」「実践的な内容でとても分かりやすく参考になった」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。しかし、31.6%が「満足度」では「ややできない・できない」と回答しており「難しかった」「資料の文字が小さい」という意見があった。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 2.6%であった。トラブル発生の内容は、「画像が出ても声が出ずに苦労した」であった。				

研修名	在宅での看取りと多職種連携の実践			開催日	2022 年 9 月 10 日
講 師	古田美津子・清水香保里 (社会医療法人春回会 出島病院)			企 画	教育委員会
目 標	在宅における看取りのケアに必要な知識、多職種と協働した看取りの在り方を学ぶ。				
受講者 概 要	応募者:28 人	受講者:26 人	アンケート回答者数 : 26 人		回答率:100%
	職種	保健師:0 人、助産師:0 人、看護師:25 人、准看護師:1 人			
	臨床経験年数	3 年未満:2 人、3～5 年 : 0 人、6～10 年 : 1 人、11～20 年:10 人、21 年以上 : 13 人			
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ : 4 人、Ⅱ : 5 人、Ⅲ : 5 人、Ⅳ : 2 人、Ⅴ : 2 人、不明 : 8 人			
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 午前は古田氏による講義であった。研修内容は、在宅における看取りの現状、自宅での看取りのポイント、看取り支援の実際、特に疼痛や呼吸器症状、せん妄、それぞれの苦痛緩和、最期数日のケアについてであった。午後は清水氏による講義であった。研修内容は、主に出島病院で実際に行われている多職種連携であった。具体的内容は、出島病院のデータ、各部署での取り組み、訪問診療・訪問看護、退院時同行・退院後訪問、事例紹介であった。				
評 価	受講者名のうち「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」がそれぞれ 80.7%、76.9%、84.6%であった。研修全体の学び・感想では「患者さん本人と家族の気持ちなどを受け止めて、一緒にケアの介入が出来る方法がよく分かった」「事例紹介もあり、在宅での看取りの実際や多職種連携がどのように行われているかわかった。家族へのサポートも必要だと感じた」「最新の看取りの現状がわかり、今後のケアに必要な知識の整理ができた。沢山の写真も拝見でき貴重な研修となった」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 19.2%であった。トラブル発生の内容は、研修初めに音声が届かなかった、パソコンが固まった等であった。				

研修名	骨・筋に強くなる！ 転倒しても骨折しない筋骨格系へのアプローチ			開催日	2022 年 9 月 11 日	
講 師	富田伸次郎（愛野記念病院）			企 画	教育委員会	
目 標	運動機能障害を正しく理解し、ロコモ予防のための基礎知識を学ぶ。					
受講者 概 要	応募者：28 人	受講者：25 人	アンケート回答者数：25 人	回答率：100%		
	職種	保健師：0 人、助産師：1 人、看護師：22 人、准看護師：1 人、介護福祉士：1 人				
	臨床経験年数	3 年未満:2 人、3～5 年：2 人、6～10 年：5 人、11～20 年：4 人、21 年以上：12 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：2 人、Ⅱ：7 人、Ⅲ：2 人、Ⅳ：5 人、Ⅴ：2 人、不明：7 人				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、運動器の機能と解剖、骨構造と加齢による破綻現象、軟骨・椎間板の構造、筋肉の役割、疼痛のメカニズム・慢性疼痛と運動、骨粗鬆症の診断や骨折の対処法、日常的な指導内容であった。どこの病院でも院内転倒が増えており、事例紹介しながら、事故発生後の対応よりも今後は予防が必要であると説明された。運動器の障害による要介護の状態、要介護リスクの高い状態をロコモティブシンドロームといい、予防するためにロコモーショントレーニングを行っていく必要がある。ロコモーショントレーニングについては、動画を用いて説明が行われた。					
評 価	受講者 25 名のうち「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」が 96%であった。研修全体の学び・感想では「知識の整理ができた」「思考が明らかになった」「充実感が得られた」などの意見があり、研修の目標は達成できたと判断する。本研修を通しての学びとして、「今回の研修でとても勉強になった。病院で活かしていきます」「今後は、ロコモ対策を行っていきます。」などの意見が聞かれた。講義もわかりやすく、アンケートの感想の中でも、「来年もうけます」「とてもわかりやすく楽しかった」という意見が多かった。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 1 名であり、Zoom の使い方がよく分からなかったという意見であった。					

研修名	看護の現場ですぐに役立つ看護記録 ～伝わる記録のコツと書き方～		開催日	2022 年 9 月 14 日
講 師	中島美津子（東京医療保健大学/大学院）		企 画	教育委員会
目 標	看護記録の重要性を知り、看護実践が見える看護記録を学ぶ。			
受講者 概 要	応募者：47 人	受講者：45 人	アンケート回答者数：43 人	回答率：91.5%
	職種	保健師：0 人、助産師：0 人、看護師：43 人、准看護師：0 人		
	臨床経験年数	3 年未満：5 人、3～5 年：2 人、6～10 年：6 人、11～20 年：19 人、21 年以上：11 人		
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：5 人、Ⅱ：9 人、Ⅲ：9 人、Ⅳ：6 人、Ⅴ：0 人、不明：14 人		
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、看護記録とはどういうものを指すのか、看護記録の原則、電子カルテ、看護記録の構成要素、看護記録作成の際の留意点・ポイントに関する事項であり、臨床現場での具体的事例を用いてわかりやすく説明された。事例に関する記録のためのアセスメントについてグループワークを行い知識の共有がされた。			
評 価	回答者 43 名のうち「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」がそれぞれ 74.5%、81.4%、81.4%であった。研修全体の学び・感想では「事例もあり、大変分かりやすい内容だった」「今までの視点と違ったところから記録の見直しができそう」「アセスメント能力の必要性や看護記録の内容、看護記録に割かれる時間を短縮することができることが分かった」など高評価である一方で、「時間厳守してほしい」「オンラインでのグループワークに慣れず混乱した」「早口でよくわからなかった」などの否定的なものがあつた。研修内容や方法の精選が必要である。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 20.9%であり、内容は、ネット環境の問題、カメラ接続ができない等であった。			

研修名	基礎から学ぶ 呼吸のメカニズムと人工呼吸器			開催日	2022 年 9 月 15 日
講 師	尾野敏明（東海大学看護師キャリア支援センター）			企 画	教育委員会
目 標	人工呼吸器を装着している患者ケアの基礎的な知識を学ぶ。				
受講者 概 要	応募者：43 人		受講者：41 人	アンケート回答者数：38 人	回答率：92.7%
	職種		保健師：0 人、助産師：0 人、看護師：38 人、准看護師：0 人		
	臨床経験年数		3 年未満：14 人、3～5 年：4 人、6～10 年：5 人、11～20 年：7 人、21 年以上：8 人		
	クリニカルラダーレベル		Ⅰ：11 人、Ⅱ：13 人、Ⅲ：6 人、Ⅳ：3 人、Ⅴ：0 人、不明：5 人		
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、気圧と分圧・ガス交換と酸素運搬・ガス交換障害と人工呼吸時の生理・人工呼吸器の役割と基礎的構造・人工呼吸管理に必要な知識・人工呼吸器のアラームと対処・人工呼吸器の離脱とケアのそれぞれの項目に対して、講義形式で行われた。午後からはスマートフォンを用いて講師と受講者のオンラインでの双方向型講義（講師の説明に対し受講者がリアクションをする）が行われた。				
評 価	アンケート回答者 38 名のうち「理解度」では、「できる・ややできる」が 78.9%であった。「満足度」では「できる・ややできる」が 76.3%であった。「活用度」では、「できる・ややできる」が 84.2%であった。研修全体の学び・感想では「根拠を持ったケアができそう」「図やイラストなどでの説明でとても分かりやすかった、観察のポイントや看護に活かすイメージができた」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。しかし、「配布資料が白黒だと見にくい」という意見も届いている。オンライン講義時のスライドはリアルタイムのため見やすいが、手元資料においては見づらさを感じている。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 7.9%であった。トラブル発生の内容は、「操作に手間取った」「音声繋がるのに 2 時間要した」であった。				

研修名	感染管理スキルアップ研修 「現場で求められるアウトブレイク時の対応」			開催日	2022 年 9 月 17 日
講 師	金澤美弥子（日本赤十字社長崎原爆病院） 中村みさ（長崎医療センター） 堤真粧美（長崎県壱岐病院）			企 画	教育委員会
目 標	アウトブレイクの基本対応とアウトブレイクを起こさないためのスキルを学び看護実践に活かす。				
受講者 概 要	応募者：29 人		受講者：28 人	アンケート回答者数：31 人	回答率：110.7%(*)
	職種		保健師：0 人、助産師：0 人、看護師：31 人、准看護師：0 人		
	臨床経験年数		3 年未満：0 人、3～5 年：1 人、6～10 年：4 人、11～20 年：13 人、21 年以上：13 人		
	クリニカルラダーレベル		Ⅰ：0 人、Ⅱ：2 人、Ⅲ：11 人、Ⅳ：5 人、Ⅴ：0 人、不明：13 人		
	(*)重複回答 3 名のため回答率は 100%を超えている				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、1)感染予防対策の基本とアウトブレイクについて、2)院内感染経路別予防策の基本と実際、3)新型コロナウイルス感染症対策であった。県内の感染管理認定看護師 3 名がリレー方式で講義を行われた。新型コロナウイルス感染症については、発生時の初期対応やゾーニングなど療養環境について、職員教育や職員の健康管理、地域連携体制など、実際に現場で行われている対策が説明された。				
評 価	受講者 28 名に対し、アンケート回答者 31 名であった。「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」が 93.5%であった。研修全体の学び・感想では「わかりやすい講義だった」「コロナに対する理解が深まり、再度施設で実施している対策の理解が深まりました」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。しかし、「アウトブレイク事例検討の GW もできたら良かった」という意見もあった。今回、講義時間が予定より早く進行し終了した。次年度は講義内容と時間調整見直しし計画していくことが必要である。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 1 名で「アンケートがチャットよりできなかった」という内容であった。このことは、運営側のチャット送信選択が原因であった。正確な機器操作の徹底が求められる。				

研修名	がん化学療法 基本の理解と予測・対応			開催日	2022 年 9 月 29 日	
講 師	長池恵美（長崎大学病院）			企 画	教育委員会	
目 標	がん化学療法の基礎知識と看護の実践を学ぶ。					
受講者 概 要	応募者：28 人	受講者：28 人	アンケート回答者数：26 人	回答率：92.9%		
	職種	保健師：0 人、助産師：0 人、看護師：26 人、准看護師：0 人				
	臨床経験年数	3 年未満:4 人、3～5 年：6 人、6～10 年：4 人、11～20 年:7 人、21 年以上：5 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：8 人、Ⅱ：0 人、Ⅲ：12 人、Ⅳ：4 人、Ⅴ：0 人、不明：2 人				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、抗がん剤の安全で清潔な取り扱い方、血管外露出の予防方法、排泄物の取り扱い、脱毛・悪心・嘔吐・便秘・下痢・皮膚障害・倦怠感の症状マネジメント、過敏症・末梢神経障害・爪甲障害・味覚障害の症状マネジメント、骨髄抑制と症状マネジメントについて写真を交えながら講義形式で実施された。また昼休憩の時間を利用し、皮膚障害の手入れなどに関する動画を受講者が自由に視聴できるように流された。					
評 価	受講者 28 名のうち「理解度」では、「できる・ややできる」が 96.2%であった。「満足度」では「できる・ややできる」が 92.3%、「活用度」では「できる・ややできる」は、96.2%であった。研修全体の学び・感想では「実践に役立つ根拠など知れてとても良かった」「資料も多くとても分かりやすかった」「使用している薬剤も多く整理ができていなかったが、副作用や特徴など学べてよかった」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。しかし、「満足度」「活用度」では 3.8%が「できない」と回答しており「資料の色が薄く見づらい所があった。スライドで資料になかったものは資料としてほしかった」という意見があった。オンライン研修については、問題等聞かれなかった。					

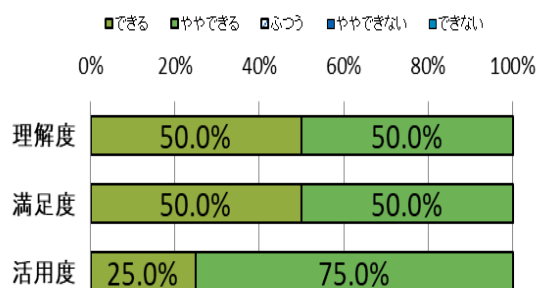
研修名	すぐに役立つ！がん放射線療法看護の実践			開催日	2022 年 9 月 30 日	
講 師	大石景子（長崎医療センター） 山田裕美子（長崎大学病院）			企 画	教育委員会	
目 標	放射線の基礎から学び、がん放射線療法の看護実践を理解する。					
受講者 概 要	応募者：14 人	受講者：14 人	アンケート回答者数：14 人	回答率：100%		
	職種	保健師：0 人、助産師：0 人、看護師：14 人、准看護師：0 人				
	臨床経験年数	3 年未満：0 人、3～5 年：2 人、6～10 年：3 人、11～20 年：6 人、21 年以上：3 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：2 人、Ⅱ：4 人、Ⅲ：6 人、Ⅳ：1 人、Ⅴ：1 人、不明：0 人				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。午前中は講義、午後からは事例検討をグループワークで行った。 研修内容は放射線の種類と作用について、また、放射線が人体に及ぼす影響であった。放射線治療による代表的な副作用として、放射線皮膚炎、放射線粘膜炎について説明された。午後からは、2 つの事例をもとにグループワークを行った。					
評 価	受講者 14 名のうち「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」がそれぞれ 85.8%、92.8%、92.9%であった。研修全体の学び・感想では「知識の整理ができた」「思考が明らかになった」「アイデアが得られた」「充実感が得られた」などの意見があり、研修の目標は達成できたと判断する。本研修を通しての学びとして、「皮膚炎のケアがすごく勉強になった」「知識を深めることができた」「難しい内容もありましたが、すごく理解できた」などの意見が聞かれた。講義もわかりやすく、アンケートの感想の中でも、「すぐに実践にいかせる」「とてもわかりやすく楽しかった」という意見が多かった。受講者数に関しては次年度は参加しやすい時期を検討する。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 1 名であり、Zoom の使い方がよく分からなかったという意見であった。					

研修名	看護職に求められるリーダーシップ			開催日	2022 年 11 月 9 日	
講 師	飯野英親（福岡看護大学）			企 画	教育委員会	
目 標	リーダーシップを発揮するために必要な基本知識を学び、チームでの役割を理解する。					
受講者 概 要	応募者：33 人	受講者：30 人	アンケート回答者数：30 人	回答率：100%		
	職種	保健師：1 人、助産師：1 人、看護師：28 人、准看護師：0 人				
	臨床経験年数	3 年未満：0 人、3～5 年：11 人、6～10 年：5 人、11～20 年：10 人、21 年以上：4 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：2 人、Ⅱ：11 人、Ⅲ：6 人、Ⅳ：1 人、Ⅴ：0 人、不明：10 人				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、午前に講義「リーダーシップとマネジメント・看護管理に役立つリーダーシップ」、午後は個人・グループワーク「自己の学習スタイル・スタッフや部下に働きかける能力の自己点検・NASA から学ぶ、チーム力を生かして課題を達成することがリーダーの役割・リーダーのコミュニケーション（コーチング）4 つのタイプ」であった。グループワークは、Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いて行われた。リーダーに求められる能力や今どきのリーダーのタイプなどリーダーシップについて学ぶこともできたが、改めて自己を知る機会になる研修だった。					
評 価	受講者 30 名のうち「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」が 96%以上であった。研修全体の学び・感想では「知識の整理ができた」「アイデアが得られた」「思考が明確になった」「充実感が得られた」が 10%以上の回答があった。また、「看護師として今後のキャリア形成における考え方を学ぶことができた」「リーダーシップ、メンバーシップについて振り返ることができた。リーダーシップをうまく発揮できないことが悩みだったので、今回の学びを活かしていきたい」「自分の考えをやっていることを振り返ることができた。研修を活かして教務や育成につなげていきたい」などの意見があり、研修の目標は達成できたと判断する。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 5 名であり、「ネットワークが不安定」「音声がかえなかった・出せなかった」「グループワークがやりにくい」との記載だった。					

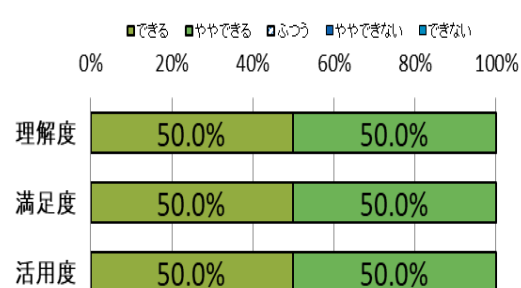
研修名	精神科訪問看護		開催日程	2022 年 10 月 1 日・2 日・15 日・16 日 4 日間(20 時間)																																		
講 師	プログラム概要参照		企画	研修センター																																		
目 的	訪問看護に従事する看護師が、精神科訪問看護の基本的知識・技術を習得し、精神障がい者に対して、適切な看護が提供できる。																																					
目 標	1) 精神疾患を有する者に関するアセスメント、援助ができる。 2) 精神疾患を有する者に対する看護に必要な基本的知識、技術を習得する。 3) 精神疾患の病態や治療について、理解することができる。 4) 精神障がい者の訪問看護を取り巻く社会環境や、訪問看護の役割について理解することができる。 5) 精神障がい者に必要な社会資源・制度を理解し、多職種との連携を図ることができる。																																					
位置づけ	精神科訪問看護基本療養費算定要件を満たす研修 20 時間																																					
受 講 要 件	1. 保健師・看護師・准看護師の資格を要する者 2. 訪問看護ステーション管理者・従事者 3. 精神科訪問看護・精神科看護に従事する者 4. 全日程受講できる者																																					
受講者概要	応募者:5 人		受講者:4 人	アンケート回答者数:4 人	回答率:100%																																	
	職種	保健師:2 人、看護師:2 人																																				
	年齢	30 歳代:0 人、40 歳代:1 人、50 歳代:2 人、																																				
	施設・立場	訪問看護ステーション2 人、児童相談等:2 人																																				
研修内容	感染対策を講じ集合研修で実施した。プログラム研修概要は下記参照。精神保健福祉の動向、精神科看護の基礎、精神障がい者の社会資源活用、精神科の最新医療と在宅ケア、精神科訪問看護の実際と GAF 評価等 4 日間(20 度間)の研修で、全日程を修了した者には修了証を交付した。 <table><tr><td></td><td></td><td>時間</td><td>内容</td><td>講師</td></tr><tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">10 月 1 日</td><td>9:30 ～ 12:15</td><td>精神保健福祉の動向 ・精神科を取り巻く現状</td><td>荒木 唱子 長崎県障害福祉課</td></tr><tr><td>13:15 ～ 16:00</td><td>精神科看護の基礎 1 ・精神障がい者への基本姿勢・日常生活の援助 ・精神障がい者の理解－利用者との信頼関係構築と対人関係の援助</td><td>水谷 孝史 長崎県精神医療センター</td></tr><tr><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">10 月 2 日</td><td>9:30 ～ 12:15</td><td>精神科看護の基礎 2 ・症状悪化の早期発見 ・危機介入 ・ストレングスモデル ・医療継続の支援</td><td>松尾 洋一 長崎県精神医療センター</td></tr><tr><td>13:15 ～ 16:30</td><td>精神障がい者の社会資源の現状とその活用 ・精神障がい者と家族が地域で生活していくための社会資源 ・在宅福祉サービスの現状 ・社会復帰、社会活動参加への支援 精神科訪問看護における他職種連携 ・他職種の役割と連携、地域におけるネットワーク</td><td>中村 仁 長崎県精神医療センター</td></tr><tr><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">10 月 15 日</td><td>9:30 ～ 11:45</td><td>精神疾患を有する者のアセスメント ・精神科領域における代表的疾患及び精神症状</td><td rowspan="2">大塚 俊弘 長崎県精神医療センター</td></tr><tr><td>12:45 ～ 15:00</td><td>精神科の最新医療と在宅におけるケア ・精神科における在宅医療 精神科訪問看護に必要な薬物療法の知識 ・精神疾患の薬物療法の実際</td></tr><tr><td>4</td><td>10 月 16 日</td><td>9:30 ～ 14:45</td><td>精神科訪問看護の実際 ・日常生活援助のアセスメント・危機介入 ・医療継続への支援 ・家族支援 ・利用者との信頼関係構築と支援関係のあり方 精神科訪問看護の GAF 尺度 ・利用者の状態の評価方法 ・GAF 尺度の評価と記載方法</td><td>中濱 裕二 藤山美香子 長崎県精神医療センター</td></tr></table>							時間	内容	講師	1	10 月 1 日	9:30 ～ 12:15	精神保健福祉の動向 ・精神科を取り巻く現状	荒木 唱子 長崎県障害福祉課	13:15 ～ 16:00	精神科看護の基礎 1 ・精神障がい者への基本姿勢・日常生活の援助 ・精神障がい者の理解－利用者との信頼関係構築と対人関係の援助	水谷 孝史 長崎県精神医療センター	2	10 月 2 日	9:30 ～ 12:15	精神科看護の基礎 2 ・症状悪化の早期発見 ・危機介入 ・ストレングスモデル ・医療継続の支援	松尾 洋一 長崎県精神医療センター	13:15 ～ 16:30	精神障がい者の社会資源の現状とその活用 ・精神障がい者と家族が地域で生活していくための社会資源 ・在宅福祉サービスの現状 ・社会復帰、社会活動参加への支援 精神科訪問看護における他職種連携 ・他職種の役割と連携、地域におけるネットワーク	中村 仁 長崎県精神医療センター	3	10 月 15 日	9:30 ～ 11:45	精神疾患を有する者のアセスメント ・精神科領域における代表的疾患及び精神症状	大塚 俊弘 長崎県精神医療センター	12:45 ～ 15:00	精神科の最新医療と在宅におけるケア ・精神科における在宅医療 精神科訪問看護に必要な薬物療法の知識 ・精神疾患の薬物療法の実際	4	10 月 16 日	9:30 ～ 14:45	精神科訪問看護の実際 ・日常生活援助のアセスメント・危機介入 ・医療継続への支援 ・家族支援 ・利用者との信頼関係構築と支援関係のあり方 精神科訪問看護の GAF 尺度 ・利用者の状態の評価方法 ・GAF 尺度の評価と記載方法	中濱 裕二 藤山美香子 長崎県精神医療センター
		時間	内容	講師																																		
1	10 月 1 日	9:30 ～ 12:15	精神保健福祉の動向 ・精神科を取り巻く現状	荒木 唱子 長崎県障害福祉課																																		
		13:15 ～ 16:00	精神科看護の基礎 1 ・精神障がい者への基本姿勢・日常生活の援助 ・精神障がい者の理解－利用者との信頼関係構築と対人関係の援助	水谷 孝史 長崎県精神医療センター																																		
2	10 月 2 日	9:30 ～ 12:15	精神科看護の基礎 2 ・症状悪化の早期発見 ・危機介入 ・ストレングスモデル ・医療継続の支援	松尾 洋一 長崎県精神医療センター																																		
		13:15 ～ 16:30	精神障がい者の社会資源の現状とその活用 ・精神障がい者と家族が地域で生活していくための社会資源 ・在宅福祉サービスの現状 ・社会復帰、社会活動参加への支援 精神科訪問看護における他職種連携 ・他職種の役割と連携、地域におけるネットワーク	中村 仁 長崎県精神医療センター																																		
3	10 月 15 日	9:30 ～ 11:45	精神疾患を有する者のアセスメント ・精神科領域における代表的疾患及び精神症状	大塚 俊弘 長崎県精神医療センター																																		
		12:45 ～ 15:00	精神科の最新医療と在宅におけるケア ・精神科における在宅医療 精神科訪問看護に必要な薬物療法の知識 ・精神疾患の薬物療法の実際																																			
4	10 月 16 日	9:30 ～ 14:45	精神科訪問看護の実際 ・日常生活援助のアセスメント・危機介入 ・医療継続への支援 ・家族支援 ・利用者との信頼関係構築と支援関係のあり方 精神科訪問看護の GAF 尺度 ・利用者の状態の評価方法 ・GAF 尺度の評価と記載方法	中濱 裕二 藤山美香子 長崎県精神医療センター																																		

新型コロナウイルスの第8波の申込期間であったため、申込期間の延長を行ったが、応募者の集客までに至らなかった。定員30名に対して5名の応募があり4名受講した。少数受講者であったが、「精神科訪問看護基本療養費算定要件を満たす研修」の内容に沿って、行政の立場から、精神科医師、精神科看護に精通した精神認定看護師、精神科臨床現場で活躍している精神保健福祉士、精神科訪問看護に携わっている看護師と多彩な講師陣からの講義内容は、知識をアップデートし新たな知見となった。また、少人数のため、質問もしやすく、全体での共有とともに、対処法について深く考える場となった。同時に、受講者同士のネットワークも短時間ででき、情報交換共有や、資料提供とコミュニケーションが深まり連携する姿が見られた。アンケートの結果では、理解度・満足度、活用度について75-100%の高評価を得ている。また、「学び直しができた」「自身の意識が変わり、大変有意義であった」等の意見が聞かれた。研修の目標は達成できたと評価する。本研修は他団体での開催もあり、本協会の開催については隔年開催となっているが、今後本研修の開催にあたっては、提供の需要、方法等について考慮していく必要がある。

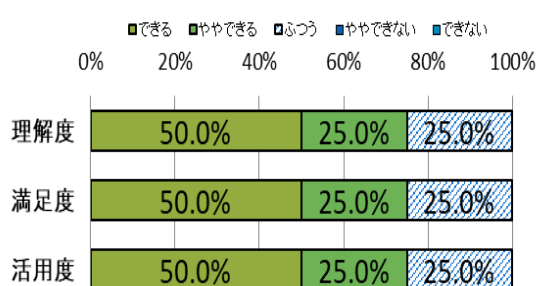
1)精神保健医療福祉の動向(荒木先生)



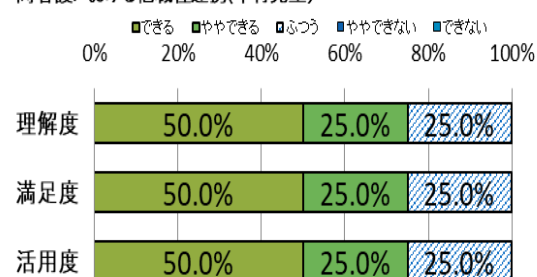
2)精神科看護の基礎1(水谷先生)



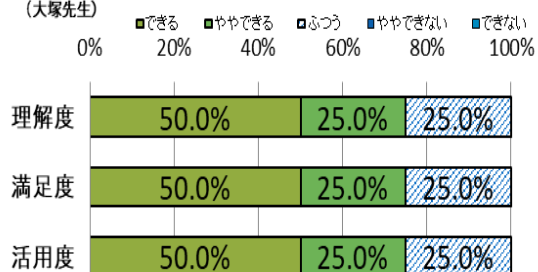
3)精神科看護の基礎2(松尾先生)



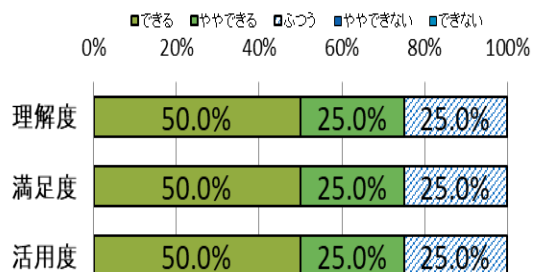
4)精神障がい者の社会資源の現状とその活用/精神科訪問看護における他職種連携(中村先生)



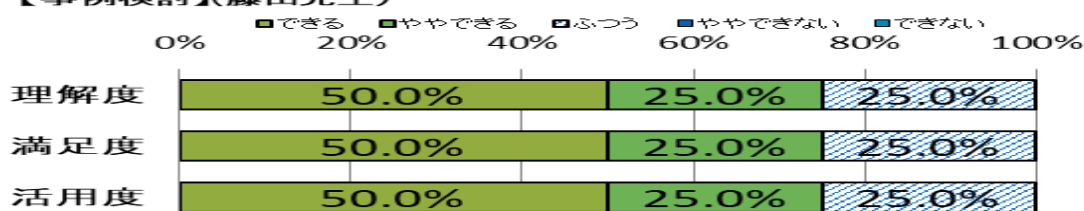
5)精神疾患を有する者のアセスメント/精神科の最新医療と在宅におけるケア/精神科訪問看護に必要な薬物療法の知識(大塚先生)



6)精神科訪問看護の実際/精神科訪問看護のGAF尺度(中濱先生)



7)精神科訪問看護の実際/精神科訪問看護のGAF尺度【事例検討】(藤山先生)



研修名	現場に役立つ褥瘡ケア ～最新知識に基づいたケアの実際～			開催日	2022 年 10 月 14 日	
講 師	大畑直子 (独立行政法人地域医療機能推進機構 諫早総合病院)			企 画	教育委員会	
目 標	褥瘡予防の重要性や褥瘡ケアの具体的な方法を理解し実践に繋ぐ。					
受講者 概 要	応募者：54 人	受講者：52 人	アンケート回答者数：49 人	回答率：94.2%		
	職種	保健師：0 人、助産師：0 人、看護師：48 人、准看護師：1 人				
	臨床経験年数	3 年未満：5 人、3～5 年：8 人、6～10 年：14 人、11～20 年：13 人、21 年以上：9 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：6 人、Ⅱ：8 人、Ⅲ：5 人、Ⅳ：1 人、Ⅴ：0 人、不明：29 人				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、褥瘡の現状・発生要因とリスクアセスメント・予防ケア・治療ケア・MDRPU の予防とケアで講義形式であった。体位調整による除圧の必要性や実践に繋がられる方法、創部の洗浄方法や褥瘡ケアに使用する薬剤や被覆材の適切な選択方法について説明された。また、DESIGN-R の最新の追加された項目に関しても説明があった。スライドの中には写真を多く取り入れており分かりやすい内容であった。					
評 価	受講者 52 名のうち「理解度」「満足度」「活用度」では「できる・ややできる」は 98.0%、89.8%、98.0%であった。研修全体の学び・感想では「ケースの写真などを折り込みながら、大変わかりやすかった」「写真や医療品の実際を知ることができ臨床に生かすことができそう」といった実際の画像を用いた講義内容に対して高評価であった。「日常でスキンケアをどうしたらいいかわからなかった所がわかった」「実際に呼吸器による鼻骨の褥瘡が発生したばかりだったので、予防とケアが大切だと思った」「褥瘡予防が重要であることが再認識できた」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 16.3%であった。トラブル発生の内容は、Wi-Fi 環境の不具合や受講者のパソコンの不調、パソコン操作の不慣れなどであった。					

研修名	事例から学ぶ、病棟・外来看護師に必要な 周術期看護の基本知識			開催日	2022 年 10 月 22 日	
講 師	前川宏司（長崎労災病院）			企 画	教育委員会	
目 標	周術期看護の必須知識と看護のポイントを学ぶ。					
受講者 概 要	応募者：26 人	受講者：23 人	アンケート回答者数：23 人	回答率：100%		
	職種	保健師：0 人、助産師：3 人、看護師：20 人、准看護師：0 人				
	臨床経験年数	3 年未満：4 人、3～5 年：2 人、6～10 年：7 人、11～20 年：7 人、21 年以上：3 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：5 人、Ⅱ：2 人、Ⅲ：9 人、Ⅳ：2 人、Ⅴ：0 人、不明：5 人				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は①周術期看護の目的 ②術前リスク評価とアセスメント ③意思決定支援・患者家族への精神的支援 ④術後合併症と観察ポイントであった。術前・術中・術後の管理とケアのポイントを、事例を交えての講義でとても分かりやすい内容であった。					
評 価	受講者 23 名のうち「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」がそれぞれ 91.3%、95.7%、95.6%であった。研修全体の学び・感想では「看護実践に役立つ内容でとても勉強になった」「想像しやすいような事例もありよかった」「術前アセスメントの重要性が改めて分かった」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。「ややできない・できない」はいなかった。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講生は 8.7%であり、トラブル発生の内容は「チャットの送信ができなかった」等であった。					

研修名	悩み解消！医療現場を取り巻くクレーム対応			開催日	2022 年 10 月 27 日	
講 師	山口育子 (認定 NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML)			企 画	教育委員会	
目 標	医療現場で起きているトラブルに関する最近の動向を知り、クレームに向き合う姿勢・技術を学ぶ。					
受講者 概 要	応募者：20 人	受講者：19 人	アンケート回答者数：16 人	回答率：84.2%		
	職種	保健師：2 人、助産師：0 人、看護師：14 人、准看護師：0 人				
	臨床経験年数	3 年未満:1 人、3～5 年：2 人、6～10 年：2 人、11～20 年：2 人、21 年以上：9 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：1 人、Ⅱ：1 人、Ⅲ：1 人、Ⅳ：1 人、Ⅴ：6 人、不明：6 人				
研修内容	集合研修で実施した。 研修内容は、講師の患者経験・COML の活動を基に、クレームの動向やパターン、クレーム対応の基本姿勢など講義形式で行われた。また、3 名 1 組のグループで「患者役」「ナース役」「観察者」を設定し、全ての役割が経験できるように 3 つのケースでロールプレイを行った。医療者には患者や家族の心に寄り添うことが求められると共に、共感性の重要性を改めて学ぶ機会となった。					
評 価	アンケート回答者16名のうち「理解度」「満足度」「活用度」では、すべての受講者が「できる・ややできる」と回答している。研修全体の学び・感想では「患者さんとの関わり方について改めて考えさせられました。実践していきたいと思います。」「クレーム対応と言えば、身構えてしまう所がありましたが、患者さんが何故そのような事を言っているのか理解しそれに合った対応を行うことが大切だと思った。クレームへ発展する前に必要な対応力を身につけていきたいと思った」 「山口先生の経験に基づく講義はとても心に響くものがありました。普段どれだけ患者さん家族の立場で看護ができていたのか振り返ることができた。ひと言を添える看護を実践していきたい」など好意的な内容であり、目標は達成できたと判断する。また、次年度企画してほしい研修として「クレーム対応 実践編」「山口育子先生の講義を別のテーマでいいので受けたい」という講師に対する評価は高かった。					

研修名	がん患者のセルフケア支援 ～治療期の生活を支えるために～			開催日	2022 年 10 月 28 日	
講 師	永石恵美（長崎大学病院）			企 画	教育委員会	
目 標	治療期にあるがん患者の全人的苦痛を理解し、セルフケア支援における看護について学ぶ。					
受講者 概 要	応募者：16 人	受講者：14 人	アンケート回答者数：14 人	回答率：100%		
	職種	保健師：0 人、助産師：0 人、看護師：14 人、准看護師：0 人				
	臨床経験年数	3 年未満：2 人、3～5 年：0 人、6～10 年：1 人、11～20 年：8 人、21 年以上：3 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：1 人、Ⅱ：1 人、Ⅲ：8 人、Ⅳ：1 人、Ⅴ：0 人、不明：3 人				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、がんサバイバーの現状、治療期の全人的苦痛、治療期における症状マネジメントとセルフケア、セルフケア支援における看護の役割であった。途中、事例を取り入れながら、がん治療期の症状およびケアについて説明があった。講義終了後、事例検討を行った。講師より事例紹介があり、事例のアセスメント・看護について個人ワーク後に発表を行った。事例検討に対し講師より説明が行われ、研修終了となった。					
評 価	受講者 14 名のうち「理解度」では、「できる・ややできる」が 92.9%であった。「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」が 100%であった。研修全体の学び・感想では「とても内容が濃く、今後の自身の看護に活かしたい内容ばかりだった」「とても勉強になり今後の看護に活かしていきたいと思う」「言葉の意味から理解できてとても充実した研修だった」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 1 名であった。トラブル発生の内容は、受講者側のマイクやカメラの設定トラブルであった。					

研修名	消化器に強くなる！ 消化器領域の検査データの見方・活かし方		開催日	2022 年 11 月 5 日
講 師	奥平定之（奥平外科医院）		企 画	教育委員会
目 標	消化器疾患に関連する検査データの見方、活かし方の基礎知識を学ぶ。			
受講者 概 要	応募者：40 人	受講者：39 人	アンケート回答者数：35 人	回答率：89.7%
	職種	保健師：0 人、助産師：2 人、看護師：32 人、准看護師：1 人		
	臨床経験年数	3 年未満:10 人、3～5 年：5 人、6～10 年：9 人、11～20 年：9 人、21 年以上：2 人		
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：9 人、Ⅱ：8 人、Ⅲ：11 人、Ⅳ：0 人、Ⅴ：0 人、不明：7 人		
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 午後からの半日講義であった。研修内容は、消化器の構造と部位別（口・咽頭・食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝臓・胆のう・膵臓）の代表される疾患について、病態および症状や所見、治療や予後まで幅広く疾患別に説明が行われた。胃や十二指腸の疾患では内視鏡検査の画像が提示され、内視鏡検査時の画像の見方の説明が行われた。			
評 価	受講者 35 名のうち「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」が「理解度」77.2%、「満足度」80.0%、「活用度」82.8%であった。研修全体の学び・感想では「研修で改めて検査データや画像の見方を学び、自分の知識と照らし合わせることができた」「外来や内視鏡業務に従事する際に役立つ知識が得られた」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。しかし、1 名が「ややできない」と回答していた。できないと回答した具体的な理由の記載はなかった。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 5.7%（2 名）であった。トラブル発生の内容は、記載がないため詳細は不明である。次年度研修に対する意見の中には、オンライン研修を継続して欲しいという意見もあった。			

研修名	地域包括ケア時代の看護師の役割 ～退院支援への取り組み～			開催日	2022 年 11 月 6 日	
講 師	木口綾子 (独立行政法人国立病院機構 長崎川棚医療センター)			企 画	教育委員会	
目 標	多職種・地域との連携を図り、円滑な退院調整、退院支援が行える必要な知識と役割を学ぶ。					
受講者 概 要	応募者：41 人	受講者：39 人	アンケート回答者数：36 人	回答率：92.3%		
	職種	保健師：4 人、助産師：0 人、看護師：32 人、准看護師：0 人				
	臨床経験年数	3 年未満:2 人、3～5 年：3 人、6～10 年：7 人、11～20 年：12 人、21 年以上：12 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：2 人、Ⅱ：9 人、Ⅲ：7 人、Ⅳ：6 人、Ⅴ：2 人、不明：10 人				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は「Ⅰ. 退院支援が求められる背景」「Ⅱ. 地域包括ケアシステムの理解、病院が果たす機能とシステム作り」「Ⅲ. 退院支援・退院調整を行う看護職の必要性和役割」「Ⅳ. 院内における退院支援プロセス」「Ⅴ. 退院調整の実際、退院支援がもたらす効果」で、事例を交え説明された。午前と午後に 1 回ずつ GW があり講師・教育委員もグループに参加し支援した。					
評 価	受講者36名のうち「理解度」「満足度」「活用度」は「できる・ややできる」がそれぞれ88.9%、80.6%、83.4%であった。研修全体の学び・感想では「話し合いを何回も行うことや、早期から退院調整を行うことが大切であること、患者さん家族の気持ちを考える思いやりの気持ちが退院支援には必要であることを感じた」「実際の事例や参考資料も多く、グループワークもあり、有意義な研修だった」「先生の講義を受けて、自分にも出来る事があると自信が持てた。そして対応してくれるスタッフで患者の未来の方向性が変わるのではないかと思った。みんなで情報共有して、一丸となって退院支援をしていこうと認識させられた」等、たくさんの好意的な感想から、目標は達成できたと判断する。一方で、「資料の文字が小さい」「研修時間と資料の内容が合っていない」との意見もあった。オンライン研修について「困った」と回答した受講者は11.1%で、「途中でのインターネット接続が切れてしまった」「グループワークに画面が変わって、その後の操作がわからなくなった、ミュート画面が出なくなった」などであった。					

研修名	コーチングを活かした OJT の際の指導力、研修の設計力を高めよう			開催日	2022 年 11 月 12 日～13 日
講 師	杉浦真由美 (北海道大学大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター)			企 画	教育委員会
目 標	教える技術、教え上手の育て方の技術を深め、教育計画作成ポイントを学ぶ。				
受講者 概 要					
	応募者：25 人	受講者：23 人	アンケート回答者数：23 人	回答率：100%	
	職種	保健師：0 人、助産師：0 人、看護師：23 人、准看護師：0 人			
	臨床経験年数	3 年未満:0 人、3～5 年：0 人、6～10 年：8 人、11～20 年：6 人、21 年以上：9 人			
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：2 人、Ⅱ：1 人、Ⅲ：12 人、Ⅳ：3 人、Ⅴ：3 人、不明：2 人			
研修内容	本研修は 1 日目午後からの半日、2 日目 1 日研修の計 1.5 日研修であった。全日 Zoom と Google ドライブを使用したオンラインで実施した。 研修内容は、1 日目は「教えることとコミュニケーション」「インストラクショナルデザイン」「運動スキルの教え方」「認知スキルの教え方」「態度スキルの教え方」であった。2 日目は「教えられ上手の育て方」「実施指導のコツ」「ビデオ教材を活用した教え方」「勉強会を設計するポイント」「教育計画作成するポイント」であった。研修内容の項目すべてにおいて講義ののち、自部署での現状や、自部署でどのように活用するかについて、GW を実施した。時間は 5ー15 分とそれぞれに設定された。講師がワーク中にグループに参加し意見交換が途中である場合には、時間延長を行った。助言が必要なグループへはその都度講師がコメントされた。どのグループも 1.5 日間同じグループということもあり、2 日目の終盤には活発に意見交換が行われていた。				
評 価	受講者 23 名のうち「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」が 100%であった。研修全体の学び・感想では「今後は教育に積極的に関わっていききたい」「教えられ上手の育て方は活用していきたい」「新人、現人教育で悩んでいたところの解決の糸口が見えた」「病棟がうまくまわるように、活用できる部分も多くあったので、実施したいと思う」「教えることにもこんなに多くの技術が必要と知り、再度研修資料を見直して新人教育に活かしたい」「後輩指導を行う際に、コーチングスキルを活かしながら、また、言葉かけをうまく使いながらよりよい指導になるよう頑張っていこうと思う」「先生の丁寧な説明で理解しやすかった」「GW をして、意見交換を交えながらとてもよい学びになった。なかなか他施設の方の意見も聞けないのでよい経験になった」「部署の実地指導や研修に活かそうです」「自分の指導の仕方が間違っている部分に気づけた。色々な技術を用いて教える技術を磨いていきたい」「これまで勇気付けは意識していなかったが、とても必要なことだと実感した。活用していきたい。」「講義もだが、同じ立場の方々と意見交換できたこともよい機会であった」「とても実りの多い研修でした。先生の優しい声掛けも参考になりました。話し方も優しくて聞きやすかったです。「教え方」の方法が明確になったので、今後の教育にうまく活用できるように努めていきたい。」「今まで研修の設計を学んだことがあったが、なかなか今までしてこなかったということもあり理解できなかったもので、研修を受けた。同じ内容の講義もあったが、今回は理解することができたのですごく感謝します。本も買って見てみたいと思った。また機会があったら杉浦先生の講義を受けたいと思う。はじめはワークの時間は緊張したが、いろいろな考えが聞けてそれも楽しかった」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。オンライン研修については、トラブル発生「有」と回答した受講者は 13%であった。トラブル発生の内容は、「先生の接続が不安定になり、数秒声が聞こえなくなった」「Google ドライブの仕方がわかりませんでした」「事前にダウンロードしていたが、なぜかうまくスタートできずに困ったが、対応してもらい助かりました」とあった。研修前に Google ドライブをインストールするよう指示し、GW 時に共同編集・発表での画面共有で使用した。Google ドライブの使用により講義後でも見返せる、各施設に戻ってもプリントアウトできるなどもメリットがあるが、オンラインでの使用の場合は事前に受講者への十分な確認・説明が必要であると感じた。				

研修名	脳血管に強くなる！脳血管障害の基礎知識			開催日	2022 年 11 月 18 日	
講 師	田栗寛子（十善会病院）			企 画	教育委員会	
目 標	脳血管障害の基本知識を学び、看護に必要なアセスメントを理解する。					
受講者 概 要	応募者：46 人	受講者：45 人	アンケート回答者数：38 人	回答率：84.4%		
	職種	保健師：0 人、助産師：0 人、看護師：38 人、准看護師：0 人				
	臨床経験年数	3 年未満：1 人、3～5 年：5 人、6～10 年：9 人、11～20 年：18 人、21 年以上：5 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：5 人、Ⅱ：7 人、Ⅲ：11 人、Ⅳ：3 人、Ⅴ：2 人、不明：10 人				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修は、「日本における脳卒中の動向」「脳と神経機能」「脳卒中の分類、治療および看護（発症予防、再発予防も含む）」「脳卒中の合併症と予防支援技術」の内容で講義が行われた。脳・神経系の解剖、脳・神経疾患に対して行われる検査・治療・処置、脳卒中の病態・診断・治療が詳しく講義があった。また、患者の身体面・心理面・社会面のアセスメントができるように、危機的状況にある家族のニーズについてアセスメントができるような講義もあり、生活者としてとらえることや待つ看護の大切さを伝えられ、日々のアセスメント・看護に活かすことができたものであった。					
評 価	アンケート回答者 38 名のうち「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」がそれぞれ 73.7%、84.2%、89.5%であった。今後の活用では、「看護実践」が 51.5%、「スタッフ教育」「自己啓発」が 15%以上であった。研修全体の学び・感想では「知識の整理ができた」が 39.3%、「アイデアが得られた」「思考が明確になった」「充実感が得られた」に 10%以上の回答があった。また、「待つ看護をできるように、心がけたい」「解剖生理のまなびはもちろんリハビリ看護の必要性を再認識できた。日々のケアに生かしたい」などの意見があり、研修の目標は達成できたと判断する。オンライン研修については、「勝手に Zoom がログアウトし再ログインしたが、ホストからの許可がなかったので研修センターへ連絡した」「音声が途中から聞こえなくなった」などであった。					

研修名	循環器に強くなる！慢性心不全患者の看護			開催日	2022 年 12 月 22 日	
講 師	馬場妙子（長崎大学病院） 山本かおり（光晴会病院）			企 画	教育委員会	
目 標	慢性心不全の知識を深め、療養支援の実際を学び、看護実践に生かす。					
受講者 概 要	応募者：57 人	受講者：53 人	アンケート回答者数：43 人	回答率：81.1%		
	職種	保健師：0 人、助産師：5 人、看護師：38 人、准看護師：0 人				
	臨床経験年数	3 年未満:13 人、3～5 年：8 人、6～10 年：8 人、11～20 年：11 人、21 年以上：3 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：15 人、Ⅱ：9 人、Ⅲ：10 人、Ⅳ：3 人、Ⅴ：0 人、不明：6 人				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、心不全に関しての日本の現状、心不全の原因・疾患、病態生理、症状、検査と治療、意思決定支援、療養指導の講義。午後からは「独居高齢心不全患者の療養支援」と「壮年期の初回心不全患者の療養支援」の 2 事例を 11 グループに分かれて事例検討を行った。					
評 価	受講者 43 名のうち「理解度」では「できる・ややできる」が 72.1%、「満足度」では 81.4%、「活用度」では 79.1%であった。研修全体の学び・感想では「心不全の知識が深まった」「症例検討は実践的であり勉強になったので活用したい」「具体的な介入方法が示されわかりやすかった」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。しかし「循環器病棟ではないため書き取りに必死で理解しづらかった」「資料の字が細かくてみにくかった」「グループワークで話さない人もいて誰かに負担がかかっている気がした」という意見もあった。オンライン研修で困った事を「はい」と回答した受講者は 16.3%であった。内容は、グループワーク時「誰も話を切り出せず困った」「突然動画が途切れた」「時間がもう少しあればもっと意見をまとめることができた」「事例検討は資料送付の際に通達してもらえると早く話し合えたと思う」等であった。オンラインでのグループワーク運営方法の検討が必要である。また、循環器系の研修をシリーズ化して欲しいという意見もあった。					

研修名	災害支援ナース育成研修【実務編】			開催日	2022 年 12 月 3 日																		
講 師	田崎遥奈(長崎県福祉保健部医療政策課地域医療班) 辻林玲美(社会医療法人春回会 井上病院) 酒井 恵(市立大村市民病院) 余里康子(公益社団法人長崎県看護協会)			企画	災害委委員会 研修センター																		
目 的	1. 看護専門職の災害時支援者として、被災地や被災者に対して有効に機能する。 2. 災害支援ナースとして他者と協働でき、自律した活動ができる。																						
目 標	1. 災害支援ナースの活動の実際を想定することができる。 2. 災害支援ナースとして活動する際の基本的な心構えがわかる。 3. 災害支援ナースの活動の展開と展開にあたっての留意事項がわかる。																						
受講者 概 要	<table><tr><td>応募者:51 人</td><td>受講者:48 人</td><td>アンケート回答者数:30 人</td><td>回答率:62.5%</td></tr><tr><td>職種</td><td colspan="3">保健師:1 人、助産師:1 人、看護師:28 人、准看護師:0 人</td></tr><tr><td>臨床経験年数</td><td colspan="3">3~5 年:0 人、6~10 年:3 人、11~20 年:9 人、21 年以上:18 人</td></tr><tr><td>クリニカルラダーレベル</td><td colspan="3">Ⅰ:5 人、Ⅱ:7 人、Ⅲ:11 人、Ⅳ:3 人、Ⅴ:2 人、不明:10 人</td></tr></table>					応募者:51 人	受講者:48 人	アンケート回答者数:30 人	回答率:62.5%	職種	保健師:1 人、助産師:1 人、看護師:28 人、准看護師:0 人			臨床経験年数	3~5 年:0 人、6~10 年:3 人、11~20 年:9 人、21 年以上:18 人			クリニカルラダーレベル	Ⅰ:5 人、Ⅱ:7 人、Ⅲ:11 人、Ⅳ:3 人、Ⅴ:2 人、不明:10 人				
応募者:51 人	受講者:48 人	アンケート回答者数:30 人	回答率:62.5%																				
職種	保健師:1 人、助産師:1 人、看護師:28 人、准看護師:0 人																						
臨床経験年数	3~5 年:0 人、6~10 年:3 人、11~20 年:9 人、21 年以上:18 人																						
クリニカルラダーレベル	Ⅰ:5 人、Ⅱ:7 人、Ⅲ:11 人、Ⅳ:3 人、Ⅴ:2 人、不明:10 人																						
研修内容	日本看護協会の災害支援ナース育成研修プログラムに則り、災害支援ナースの実践力向上を目的とした研修 6 時間、本県での実務編として集合研修で開催した。内容は、午前、本県の災害医療体制を県担当者による講義、災害支援ナースの活動の実際では、自己完結型の看護支援技術と状況設定「災害発生時」「派遣決定」の演習をグループ討議。さらに、本協会における災害支援ナース派遣概要の説明を加えた。午後は、引き続き、状況「活動場所へ到着」「活動中に新たな支援を依頼された」「支援ニーズが減少し活動を終了」設定でグループワークを実施した。演習は 4 名の災害委員が支援者として支援体制を整えた。演習後はまとめとして、「記録と報告」「活動の評価」の講義を受けた。最後に、本協会における災害支援ナースの登録役割とこれまでの活動経過の報告があった。																						
評 価	受講者 48 名中、災害支援ナース登録者は 37 名であった。本年度は、感染対策を講じた集合研修でグループワークも活発で、他者の意見を聞くことで幅広い対応に繋がったとの受講者からの意見が多数聞かれた。状況設定での机上シミュレーションであったが、討議が活発でいろんな方向からの学びの深まりに繋がった。アンケート回答率は 62.5%と低かったが、研修内容についての理解度は、できる・ややできる 96.7%、満足度は 93.3%、今後の実践への活用は 96.6%と高い評価であった。災害支援経験者の活動や、本協会の災害支援ナース活動の実際を想定することができたことは、研修目的達成に繋がったと思われる。今後の本協会災害支援ナース登録の推進と登録者の継続した研修内容として計画していくことが必要である。 研修について ■できる ■ややできる □ふつう ■ややできない ■できない <table><tr><td>理解度</td><td>76.7%</td><td>20.0%</td><td>3.3%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>満足度</td><td>60.0%</td><td>33.3%</td><td>6.7%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>活用度</td><td>63.3%</td><td>33.3%</td><td>3.3%</td><td></td><td></td></tr></table>					理解度	76.7%	20.0%	3.3%			満足度	60.0%	33.3%	6.7%			活用度	63.3%	33.3%	3.3%		
理解度	76.7%	20.0%	3.3%																				
満足度	60.0%	33.3%	6.7%																				
活用度	63.3%	33.3%	3.3%																				

研修名	はじめてのプリセプター ～新人の一番近くに～（2回開催）		開催日	【1回目】2022年12月8・9日 【2回目】2023年1月12・13日
講 師	江藤節代（NPO 法人日本看護キャリア開発センター）		企 画	教育委員会
目 標	新人看護師の特徴、プリセプターの役割、プリセプターとして求められる能力を理解し、新人看護師教育のビジョンの明確化と関わり方を学ぶ。			
受講者 概 要	【1回目】			
	応募者：39人	受講者：38人	アンケート回答者数：35人	回答率：92.1%
	職種	保健師：0人、助産師：0人、看護師：35人、准看護師：0人		
	臨床経験年数	3年未満:10人、3～5年：14人、6～10年：7人、11～20年：3人、21年以上：1人		
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：12人、Ⅱ：10人、Ⅲ：1人、Ⅳ：1人、Ⅴ：0人、不明：11人		
	【2回目】			
	応募者:75人	受講者：75人	アンケート回答者数：72人	回答率：96.0%
	職種	保健師：1人、助産師：0人、看護師：71人、准看護師：0人		
	臨床経験年数	3年未満:16人、3～5年：29人、6～10年：18人、11～20年:5人、21年以上：4人		
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：13人、Ⅱ：35人、Ⅲ：14人、Ⅳ：0人、Ⅴ：0人、不明：10人		
研修内容	【1回目】 集合で実施した。1日目は講義形式で「新人看護職員臨床研修の概要 新人看護師の特徴と背景」「プリセプターの役割」「教育のビジョンと教育的関わり」、2日目は講義・演習形式で「コーチングを活用した新人支援」「プリセプターとしての今後取り組みたい課題」であった。演習では関わりの難しさを感じている4つの事例から1つを選択し、その場面を想定し、講義で学んだコーチングスキルを活用したシナリオを作成した。その後グループ毎に発表し、意見や感想を全体で共有した。			
評 価	受講者35名のうち「理解度」「満足度」「活用度」は「できる・ややできる」が94.3%、91.4%、94.2%であった。研修全体の学び・感想では「コーチングの知識を得られ、今後プリセプターとしての新人さんへの声かけや関わり方の参考になった。新人さんのわからないことや、できていない方を一方的に伝えてしまいがちだったが、新人さんの成長に繋がるような声かけや関わりをしていけるよう明日から実践する」「育てる責任感の考え方を考えることができた事で、プリセプターとしての役割をしっかりと把握できた事はこれからの経験に繋がると思う」「どのように新人に向き合っていけば良いか考えが明確化できた」など好意的な内容であり、目標は達成できたと判断する。			
研修内容	【2回目】 Zoomを使用したオンラインで実施した。研修内容は、1日目は、「新人看護職員臨床研修の概要『新人看護師の特徴と背景』」、「プリセプターの役割」、「教育のビジョンと教育的関わり」の内容で講義があった。2日目は、午前の前半を「コーチングを活用した新人支援」の内容で講義があり、後半は『プリセプターとして今後取り組みたい課題』についてシナリオ作成で個人ワークを行った。午後は、作成したシナリオの発表とその発表に対して受講者2名と講師のコメントが行われた。7名がシナリオ発表をしたが、うち5名は自分から進んで発表を行った。発表されたシナリオは、自分の新人の頃を思い出して作ったものや後輩を思いながら作ったものであった。			
評 価	受講者72名のうち、「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」が97%以上であった。今後の活用については、「看護実践」「スタッフ教育」が約40%。研修全体の学びでは、「知識の整理ができた」「アイデアが得られた」が20%以上、「思考が明確になった」「問題解決の糸口が得られた」「充実感が得られた」が10%以上の回答であった。研修の感想や・意見には、多くの受講者が記載しており、「日ごろから活用できる考え方であった」「実践に活かせる」との意見が多くあり、「コーチング方法や質問の仕方が学べた」や「新人と一緒に私も育っていける関係を作りたい」などの意見があり、研修の目標は達成できたと判断する。 オンライン研修については、「困ったことが有った」と回答した受講者は3名であり、「グループワークができないこと」「ネットワーク環境の確保」などがあり、「画面をONにするのはいいが、発表中だけならまだしも、講師以外に見られているのが嫌だった」等の記載があった。			

研修名	感染症の最新動向 新興ウイルスと感染予防対策			開催日	2022 年 12 月 10 日	
講 師	賀来満夫（東北医科薬科大学）			企 画	教育委員会	
目 標	感染症に対する最新の動向と、感染予防対策を学ぶ。					
受講者 概 要	応募者：58 人	受講者：55 人	アンケート回答者数：50 人	回答率：90.9%		
	職種	保健師:0 人、助産師:3 人、看護師:45 人、准看護師:1 人、理学療法士:1 人				
	臨床経験年数	3 年未満:8 人、3～5 年：4 人、6～10 年：5 人、11～20 年:15 人、21 年以上：18 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：6 人、Ⅱ：2 人、Ⅲ：17 人、Ⅳ：4 人、Ⅴ：4 人、不明：17 人				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、前半は新興感染症として問題となっているエボラ出血熱や MERS、薬剤耐性菌感染症などについての症例を挙げながらの講義があった。後半は、新型コロナウイルス感染症対応のポイントとして、最新の疫学情報やワクチンを含めた感染予防、感染対策、治療などに関するエビデンスを含めた講義があり、今後の感染動向に関連する要因や考慮していくべき感染症対応について説明があった。スライドは最新情報で分かりやすい内容であった。					
評 価	回答者 50 名のうち「理解度」「満足度」「活用度」では「できる・ややできる」は 76%、86%、92%であった。研修全体の学び・感想では「新しい情報を知ることが出来て良かった」「とても勉強になった」「最新のデータを示していただき、知識が深まった」など、最新データを用いた講義内容に対して多数の高評価であった。ただ、最新データを用いた講義であったため、講義の際には資料が手元になかった。また、講義内容が多かったため、休憩時間が少なかった。アンケートの結果をふまえ、研修の目標は達成できたと判断する。オンライン研修については、困った事「有」と回答した受講者は 8%であった。トラブル発生の内容は、Wi-Fi 環境の不具合や受講者のパソコンの不調、パソコン操作の不慣れなどであった。					

研修名	急性期における家族の思いに寄り添ったケア		開催日	2022 年 12 月 16 日
講 師	久間朝子（福岡大学病院）		企 画	教育委員会
目 標	急性期における家族ケアを理解し、家族の状況に合わせた具体的な対応を学ぶ。			
受講者 概 要	応募者：34 人	受講者：33 人	アンケート回答者数：31 人	回答率：93.9%
	職種	保健師：0 人、助産師：1 人、看護師：30 人、准看護師：0 人		
	臨床経験年数	3 年未満:6 人、3～5 年：2 人、6～10 年：5 人、11～20 年：11 人、21 年以上：7 人		
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：6 人、Ⅱ：6 人、Ⅲ：8 人、Ⅳ：4 人、Ⅴ：2 人、不明：5 人		
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、午前中は講義、午後は講義とグループワークであった。内容は、システムとしての家族、個人としての家族について、悪い知らせを伝えるときの配慮、SPIKES（「悪い知らせ」を話し合うコミュニケーションスキル）について、意思決定（Dicision making）支援についてなどの講義であった。グループワークでは、「患者家族の心理および家族の思いやチカラに着目した看護実践を行うために」というテーマで事前課題として、患者家族とのやり取りの中でうまくいったこと、なんだかうまくいかずに心残りがあること、他の人ならどう考えるだろうなといった疑問など 1 例を準備してもらい、5 グループに分かれディスカッションを行った。			
評 価	アンケート回答者 31 名のうち「できる・ややできる」が「理解度」90.3%、「満足度」90.3%、「活用度」96.8%であった。研修全体の学び・感想では「自分の看護を振り返るきっかけになるとともに、自分にはない発想なども得られたためとても良い研修だった」「具体的な実践内容でとてもいい研修でした」「グループワークで、他の方達の意見や実体験などを共有できた」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。オンライン研修で困ったこと「有」と回答した受講者 16.1%であった。内容は、「間違えて退出してしまった」「自分の声が出せなかった」「時々音声のみになった」等で受講者自身の機器操作によるものであった。。今後の研修に対する意見は、整形外科、糖尿病患者における看護支援の希望等があった。			

研修名	終末期における意思決定支援 ～患者・家族の希望に添った輸液と鎮静～			開催日	2023 年 1 月 20 日	
講 師	古田美津子（社会医療法人春回会 出島病院）			企 画	教育委員会	
目 標	終末期患者、家族の「輸液・鎮静」に関する意思決定を支える看護師の役割を学ぶ。					
受講者 概 要	応募者：49 人	受講者：45 人	アンケート回答者数：44 人	回答率：97.8%		
	職種	保健師：0 人、助産師：1 人、看護師：43 人、准看護師：0 人				
	臨床経験年数	3 年未満：4 人、3～5 年：3 人、6～10 年：7 人、11～20 年：12 人、21 年以上：18 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：6 人、Ⅱ：5 人、Ⅲ：15 人、Ⅳ：6 人、Ⅴ：3 人、不明：9 人				
研修内容	本研修は Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、総論として緩和ケア・意思決定支援・倫理的問題、概論では輸液、鎮静に関する内容であった。スライドを用いて全て講義形式で行われた。動画配信も問題なく受信した。最後に質疑応答の対応を行った。					
評 価	受講者 44 名のうち「理解度」では、「できる・ややできる」が 93.2%、「満足度」では 90.9%、「活用度」では 84.1%であった。研修全体の学び・感想では「患者様に一番近い看護師として、意思決定支援をする場面に関わることが多くなった。その際にどのような治療、ケアを提供するかを考えがちであったが、その人その家族が大切にしたいことは何かをくみ取っていけるような関りができたらいいと思った」「事例もあり分かりやすかった」「治療に関して患者、家族に少しでもわかりやすく説明できるように理解を深めていきたいと思った」「基本的な総論から、輸液、鎮静についての概論をゆっくり詳しく話していただけて分かりやすかった」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。オンライン研修については、困ったこと「有」と回答した受講者は 9.1%であった。内容は、「途中で Wi-Fi が切れてしまい迷惑をかけた」「マイクを見つけられず困った」等であった。					

研修名	実践に生かす！糖尿病の最新知識とセルフケア支援			開催日	2023 年 1 月 21 日
講 師	明島淳也（嬉野医療センター） 平野晃彦（済生会長崎病院）			企 画	教育委員会
目 標	糖尿病について知識を深め、患者ケアや療養指導を学ぶ。				
受講者 概 要	応募者：41 人		受講者：39 人	アンケート回答者数：38 人	回答率：97.4%
	職種		保健師：0 人、助産師：5 人、看護師：33 人、准看護師：0 人		
	臨床経験年数		3 年未満:11 人、3～5 年：11 人、6～10 年：4 人、11～20 年：6 人、21 年以上：6 人		
	クリニカルラダーレベル		Ⅰ：9 人、Ⅱ：9 人、Ⅲ：4 人、Ⅳ：0 人、Ⅴ：1 人、不明：15 人		
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 午前は血糖の正常値や血糖測定の方法、最近ではリブレが簡便であり、利用が増加していることの説明があった。食事療法のポイントやトルリシティが体重減少に効果があること、それらの成功体験で患者に治療に対するやる気を出させることができる。午後からはリブレについて詳しい説明があり、血糖値をモニタリングすることで、低血糖や高血糖の背景を患者と一緒に考え、食事内容やインスリンの調整を行い、療養指導につなげていく。また事例の提示があり、個人ワークでどのようなセルフ支援が必要かを考えた。その後、講師より事例に対する療養支援のポイントを説明され、研修は終了した。				
評 価	アンケート回答者 38 名のうち「理解度」では、89.6%、「満足度」では 92.1%、「活用度」では 89.5%が「できる・ややできる」と答えている。研修全体の学び・感想では「糖尿病患者さんとの関わりや治療について学ぶことができた」「リブレのことは知らなかったので詳しく知れてよかった」とあり、新たな血糖測定方法も習得できた。受講者の 66.1%が今後の看護実践に活かすと答えており、研修の目標は達成できたと判断する。オンライン研修については、困った事「有」と回答した受講者は 5.3%であった。内容は、パソコンの準備不足であった				

研修名	循環器に強くなる！ 循環器領域の検査データの見方・活かし方			開催日	2023 年 2 月 5 日	
講 師	櫻川浩一郎（櫻川循環器内科クリニック）			企 画	教育委員会	
目 標	循環器疾患に関連する検査データの見方、活かし方の基礎知識を学ぶ。					
受講者 概 要	応募者：57 人	受講者：51 人	アンケート回答者数：51 人	回答率：100%		
	職種	保健師：2 人、助産師：3 人、看護師：45 人、准看護師：1 人				
	臨床経験年数	3 年未満:10 人、3～5 年：9 人、6～10 年：7 人、11～20 年:19 人、21 年以上：6 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：9 人、Ⅱ：12 人、Ⅲ：15 人、Ⅳ：4 人、Ⅴ：1 人、不明：10 人				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、胸部レントゲン検査、十二誘導心電図、心エコー検査、血液生化学検査、心臓カテーテル検査、心筋シンチ検査に関する結果の見方、留意点等であった。心電図・エックス線検査・超音波検査、心臓カテーテル検査等、言葉だけの説明では理解が難しい検査に関して実際の映像を用いて説明された。					
評 価	受講者 51 名のうち「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」が 90%以上であった。研修全体の学び・感想では「循環器に関しては苦手意識がすごくある分野でしたが、コンパクトに視点を絞ってあり、すごくわかりやすかった」「心エコーの画像やレポートの見方がよく分からなかったが今回の講義で何を表示しているのか理解できたので今後の実践現場で活かしたい」「自分だけの勉強では追い付かないことも多く本日の研修で知識の整理ができた」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。全体的に研修に対する受講者の満足度が高く、応用編や心電図や心臓カテーテル検査等に特化したシリーズ研修への希望の声があった。オンライン研修については、困ったこと「有」と回答した受講者は 5.9%であった。研修途中、Wi-Fi 接続不良を訴える受講者がいたが、チャットで対応した。					

研修名	地域と病院をつなぐ外来看護 ～在宅療養支援における外来看護師の役割～			開催日	2022 年 10 月 8 日	
講 師	塩田美佐代（湘南医療大学）			企 画	教育委員会	
目 標	① 外来に求められる 看護の専門性と役割について学ぶ。 ② 患者のニーズに応じた住み慣れた地域での生活を支えるための、専門外来の機能と役割について学ぶ。					
受講者 概 要	応募者：31 人	受講者：30 人	アンケート回答者数：26 人	回答率：86.7%		
	職種	保健師：1 人、助産師：0 人、看護師：24 人、准看護師：1 人				
	臨床経験年数	3 年未満：0 人、3～5 年：2 人、6～10 年：2 人、11～20 年：8 人、21 年以上：14 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：0 人、Ⅱ：1 人、Ⅲ：7 人、Ⅳ：4 人、Ⅴ：2 人、不明：12 人				
研修内容	Zoom を使用したオンラインで実施した。 研修内容は、地域包括ケアシステムと外来を取り巻く医療情勢（外来機能分化）についてと外来看護師に求められる役割と必要なスキルについてであった。外来、在宅、入院と切れ目のない看護を提供するために、それぞれが役割を発揮することの必要性、看護のポイントについて事例を交えながらわかりやすく説明された。					
評 価	受講者 26 名のうち、「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」がそれぞれ 96.2%、92.3%、88.5%であった。研修全体の学び・感想では「今回の研修を受けたことで自施設の方が見えた」「外来での在宅支援の重要性と内容が良くわかり、ヒントになった」とあり、研修の目標は達成できたと判断する。しかし、「活用度」で 7.7%が「ややできない」と回答しており、「設定が難しかった」という意見があった。半日研修であったが 1 日研修にしてほしいという意見もあった。オンライン研修については、困ったこと「有」と回答した受講者は 7.7%であり、内容は、「音声を出すまでに時間がかかった。」「すぐにうまく接続できなかったであった」等であった。					

研修名	看護師のクリニカルラダーを活用した評価の実際			開催日	2022 年 11 月 25 日	
講 師	森 孝子（市立大村市民病院）			企 画	教育委員会・研修センター	
目 標	看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）を活用・取り組みの実際と施設における教育体制の評価方法を学ぶ。					
受講者概要	応募者：18 人	受講者：18 人	アンケート回答者数：17 人	回答率：94.4%		
	職種	保健師：0 人、助産師：0 人、看護師：17 人、准看護師：0 人				
	臨床経験年数	3 年未満:0 人、3～5 年：0 人、6～10 年：人、11～20 年： 3 人、21 年以上：14 人				
	クリニカルラダーレベル	Ⅰ：0 人、Ⅱ：0 人、Ⅲ：3 人、Ⅳ：3 人、Ⅴ：4 人、不明：7 人				
研修内容	集合研修で実施した。 研修内容は、地域医療振興協会の看護継続教育とキャリア開発支援、看護師のクリニカルラダー日本看護協会版（JNA ラダー）動画視聴と基本的な考え方、施設内教育に JNA ラダーをどのように活用するか、JNA ラダーの導入（作成・見直し）をどうするか、さらに、JNA ラダーの学習内容をどう活用するかについて説明。後半は、JNA ラダーを活用した教育マニュアル、評価方法（自己評価、他者評価）、JNA ラダーを活用した看護実践能力の自己評価力の育成、評価者育成についてであった。グループワークでは前半、施設の現状・困っていること、後半は評価の取り組みについてディスカッションを行い、ワークでの個別質問に対して講師が丁寧に対応していった。参加者 18 人のグループは、ラダーを導入している施設と、ラダーを取り入れようと参加している施設を混在した編成で行った。意見交換では、すでに導入している施設からの意見が多かったが、意見交換は活発であった。					
評 価	受講者 17 名のうち「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」がそれぞれ 82.4%、76.4 %、64.7%であった。クリニカルラダーを活用していない受講者からは、「ラダーを導入するには、組織的な行動計画が必要で、活用するには導入のメリットをどのようにスタッフに伝えていくかが重要である」「ラダーについてよくわかり自施設で今後取り入れていきたい」また、既にクリニカルラダーを活用している受講者からは、「独自のラダー活用により、帰院後すぐに他委員との話し合いをしたい。やらなければならない問題点が山積したこととなり時間をかけて見直しをしていきたい」「評価方法についてもっと詳しく聞くことができた」との研修全体の学び・感想であった。グループワークに関しては、 「他施設の状況も聞くことができた」「他施設との情報交流の場となり同じような問題での解決するための共有化が図れる」「自施設での疑問や個人的悩みにも丁寧に対応していただき、施設規模の違いはあるもののラダー改訂の取り組みの参考になった」「クリニカルラダーが人材育成、自己研鑽のためのツールであることを理解できた。」等のたくさんの意見があり、研修の目標は達成できた。受講者のラダー活用状況は、47.8%は活用しているが 52.9%は活用していない。本研修を継続することで、クリニカルラダー活用の浸透が図れる。また、自施設に合ったクリニカルラダー作成を丁寧に構築することが求められている。					

研修について

できる

ややできる

ふつう

ややできない

できない

0%

20%

40%

60%

80%

100%

理解度

35.3%

47.1%

11.8%

5.9%

満足度

52.9%

23.5%

17.6%

5.9%

活用度

58.8%

5.9%

29.4%

5.9%

*2022 年度 研修受講者終了アンケートを活用しクリニカルラダー導入と活用の実態調査を行った。その結果は最終頁に掲載している。

認定看護管理者教育課程

I. ファーストレベル

1. 教育目的

看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する。

2. 到達目標

- 1) ヘルスケアシステムの構造と現状を理解できる。
- 2) 組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析できる。
- 3) 看護管理者の役割と活動を理解し、これからの看護管理者のあり方を考察できる。

3. カリキュラム

教科目	単元	教育内容	講師	時間数
ヘルスケアシステム論Ⅰ	社会保障制度概論	・社会保障制度の体系 ・社会保障の関連法規	尾形 裕也	15
	保健医療福祉サービスの提供体制	・保健医療福祉制度の体系 ・地域包括ケアシステム ・地域共生社会		
	ヘルスケアサービスにおける看護の役割	・看看連携 ・地域連携における看護職の役割 ・保健医療福祉関連職種理解	佐竹 啓子	
		・看護の社会的責務と業務基準 看護関連法規 倫理綱領 看護業務基準	西村伊知恵	
組織管理論Ⅰ	組織マネジメント概論	・組織マネジメントに関する基礎知識 ・看護管理の基礎知識	倉岡有美子	15
	看護実践における倫理	・看護実践における倫理的課題 ・倫理的意思決定への支援	永石 恵美	
人材管理Ⅰ	労務管理の基礎知識	・労働法規・就業規則 ・健康管理（メンタルヘルスを含む） ・雇用形態・勤務体制 ・ワークライフバランス ・ハラスメント防止	山内小百合	30
	看護チームのマネジメント	・チームマネジメント ・看護ケア提供方式	楠本 直美	
		・リーダーシップとメンバーシップ ・コミュニケーション ・ファシリテーション	江藤 節代	
		・准看護師への指示と業務 ・看護補助者の活用	谷尾佐知子	
	人材育成の基礎知識	・成人学習の原理 ・役割理論 ・動機づけ理論 ・人材育成の方法	江藤 節代	
資源管理Ⅰ	経営資源と管理の基礎知識	・診療・介護報酬制度の理解 ・経営指標の理解 ・看護活動の経済的効果	岡田みずほ	15
	看護実践における情報管理	・医療・看護情報の種類と特徴 ・情報管理における倫理的課題（情報リテラシー）	宇都由美子	
質管理Ⅰ	看護サービスの質管理	・サービスの基本概念 ・看護サービスの質評価と改善	佐田 明子	15
		・看護サービスの安全管理 ・看護サービスと記録	幸 史子	
統合演習Ⅰ	演習	・学習内容を踏まえ、受講者が取り組む課題を明確にし、対応策を立案する。	演習支援者 専任教員	15

レポートの書き方3時間	看護管理実践計画発表会6時間	総時間数114時間
-------------	----------------	-----------

4. 受講要件

- 1) 日本国の看護師免許を有する者。
- 2) 看護師免許を取得後、実務経験が通算 5 年間以上ある者
- 3) 管理業務に関心がある者。

5. 日程・応募・受講状況

* 第 2 回修了者は第 1 回未修了者 1 人を含む

(人)

	実施期間	定員	応募者	決定者	受講者	修了者
第 1 回	5 月 19 日 (木) ～9 月 25 日 (日) (20 日間)	80	117	44	43	42
第 2 回	10 月 6 日 (木) ～令和 5 年 1 月 29 日 (日) (20 日間)			44	44	43

6. 受講者職位

(人)

	部長	副部長 管理者	師長・課長	副師長・主任 師長補佐・係長	副主任	スタッフ	計
第 1 回	0	1	6	27	2	7	43
第 2 回	0	3	10	26	0	5	44

7. 受講修了者所属施設

(人)

床	20～99	100～199	200～299	300～399	400～499	500～599	600～699	700～799	800 以上	病床なし
1 回	3	12	8	6	1	5	0	1	5	1
2 回	6	18	6	2	1	2	1	1	3	3

8. 各教科目の理解度、活用度（講義終了時の受講者評価）

「理解できた」4 点、「まあまあ理解できた」3 点、「あまり理解できない」2 点、「理解できない」1 点の平均値
「活用できる」4 点、「まあまあ活用できる」3 点、「あまり活用できない」2 点、「活用できない」1 点の平均値

教科目	単元	第1回 理解度	第1回 活用度	第2回 理解度	第2回 活用度
ヘルスケア システム論 I	社会保障制度概論・保健医療福祉サービスの提供体制	3.23	3.30	3.26	3.36
	ヘルスケアサービスにおける看護の役割	3.69	3.60	3.69	3.65
組織管理論 I	組織マネジメント概論	3.63	3.77	3.86	3.81
	看護実践における倫理	3.77	3.73	3.86	3.80
人材管理 I	労務管理の基礎知識	3.56	3.70	3.65	3.72
	看護チームのマネジメント	3.74	3.79	3.83	3.82
	人材育成の基礎知識	3.53	3.61	3.79	3.68
資源管理 I	経営資源と管理の基礎知識	3.60	3.52	3.62	3.61
	看護実践における情報管理	3.63	3.68	3.65	3.52
質管理 I	看護サービスの質管理	3.69	3.76	3.76	3.82
統合演習 I	演習	3.91	3.88	3.95	3.91

9. まとめ

2022 年度の応募人数は、新型コロナウイルス感染症状況を鑑み定員を 80 名に減らした。受講決定人数は、応募多数であり 1 割増として、第 1 回は 5 月に 43 名、第 2 回は 10 月に 44 名で開講した。受講者の職位は、副主任以上が 86.2%、スタッフ 13.8%であった。2019 年度より受講要件の一つが管理業務に関心がある者となり、裾野を広げ多くの人々がファーストを受講できるようになった。2022 年度までのスタッフの受講者率は、1 割強を推移しており、例年スタッフの受講参加を得ている。受講修了者の所属施設規模では、100～199 床の施設が 35.3%と最も多かった。病床なし、20～99 床から 800 床以上規模の施設まで受講があり、多種多様な施設から参加している。授業形態は、対面授業を基本とした。新型コロナウイルス感染症拡大時には、個人の不利益にならないよう施設の許可のもと、ハイブリッド授業も導入して環境を整えて実施した。その結果、第 1 回は対面授業 35%、ハイブリッド授業 65%、第 2 回は対面授業 25%、ハイブリッド授業 65%、オンライン授業 10%であった。ハイブリッド授業では、グループワーク時にブレイクアウトルームを活用することで、対面授業参加者とオンライン授業参加者と活発な意見交換を行うことができていた。

受講者に、各教科目の「理解度」「活用度」を 4 段階評価で尋ねた。その結果、理解度は第 2 回統合演習 I の 3.95 が最も高く、活用度も 3.91 と高かった。統合演習 I では、集団指導、個人指導を取り入れて演習グループメンバーからの助言や、演習支援者からの的確な指導を受けて理解度が深まったと考える。第 1 回修了者看護管理実践報告会では、修了者全員から報告書の提出があった。第 2 回修了者は、6 月にフォローアップ①看護管理実践報告会の予定である。看護管理実践報告会では、課題や対策を共有し、看護管理能力の向上に活かすことができ、さらにセカンドレベルの受講にもつながることを期待したい。

Ⅱ. セカンドレベル

1. 教育目的

看護管理者として基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。

2. 到達目標

- 1) 組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら担当部署の目標を設定し、達成に向けた看護管理過程を展開できる。
- 2) 保健・医療・福祉サービスを提供するための質管理ができる。

3. カリキュラム

教科目	単 元	教 育 内 容	講 師	時間数
ヘルスケアシステム論Ⅱ	社会保障制度の現状と課題	・日本における社会保障 人口構造、疾病構造の変化 社会保障費の（財源）構造と推移	尾形 裕也	15
	保健医療福祉サービスの現状と課題	・保健医療福祉サービスの提供内容の実際 病院、看護小規模多機能型居宅介護、訪問看護ステーション等	佐竹 啓子	
	ヘルスケアサービスにおける多職種連携	・多職種によるチームケア提供の実際と課題	平山 香織	
組織管理論Ⅱ	組織マネジメントの実際	・組織分析	木下日出美	30
		・組織の変革	倉岡有美子	
		・組織の意思決定	原田久美子	
	看護管理における倫理	・看護管理における倫理的課題 ・看護管理における倫理的意思決定	倉岡有美子	
人材管理Ⅱ	人事・労務管理	・人員配置 ・勤務計画 ・ワークライフバランスの推進	楠本 美和	45
		・ストレスマネジメント ・タイムマネジメント	山本 美子	
		・労働災害とその対策 ・労務管理に関する今日的課題 ・ハラスメント予防策と対応	山内小百合	
	多職種チームのマネジメント	・人的資源の活用 ・リーダーシップの実際	貞方三枝子	
		・コンフリクトマネジメント	岐部 千鶴	
		・看護補助者の育成	坂井 和子	
	人材を育てるマネジメント	・キャリア開発支援 ・人材育成計画	貞方三枝子	
資源管理Ⅱ	経営資源と管理の実際	・医業収支 ・経営指標の活用 ・費用対効果 ・適切な療養環境の整備	岡田みずほ	15
	看護管理における情報管理	・看護の評価 ・改善のための情報活用	宇都由美子	
質管理Ⅱ	看護サービスの質保証	・クオリティマネジメント ・医療・看護におけるクオリティマネジメント	小淵美樹子 出口砂緒利	30
	安全管理	・安全管理の実際 ・安全管理教育 ・法令遵守	幸 史子	
		・災害対策	西村佳奈美	
	演習	・自部署の組織分析に基づいた実践可能な改善計画を立案する。	演習支援者	
統合演習Ⅱ	実習	・地域連携を理解するための他施設実習を行う。 (実習施設は、受講者自身の所属種別以外の施設とする)	山本リョエ 実習担当者 専任教員	45
看護管理実践計画発表会 3 時間			総時間数	183 時間

4. 受講要件

- 1) 日本国の看護師免許を有する者。
- 2) 看護師免許取得後、実務経験が通算 5 年以上ある者。
- 3) 認定看護管理者教育課程ファーストレベルを修了している者。または、看護部長相当の職位にある者、もしくは副看護部長相当の職位に 1 年以上就いている者。

5. 日程・応募状況・受講状況

(人)

実施期間	定員	応募者	決定施設	決定者	受講者	修了者
7 月 1 日～12 月 11 日のうち 31 日間	30	35	20	33	32	31

6. 受講者職位

(人)

部長・総師長	副部長・次長	師長・課長・科長	主任・副師長・係長	計
1	2	20	9	32

7. 各教科目の理解度・活用度（講義終了時の受講者評価）

「理解できた」4 点、「まあまあ理解できた」3 点、「あまり理解できない」2 点、「理解できない」1 点の平均値
「活用できる」4 点、「まあまあ活用できる」3 点、「あまり活用できない」2 点、「活用できない」1 点の平均値

教科目	単元	理解度	活用度
ヘルスケアシステム論Ⅱ	社会保障制度の現状と課題	3.41	3.50
	保健医療福祉サービスの現状と課題	3.61	3.52
	ヘルスケアサービスにおける多職種連携	3.88	3.88
組織管理論Ⅱ	組織マネジメントの実際	3.73	3.88
	看護管理における倫理	3.75	3.84
人材管理Ⅱ	人事・労務管理	3.91	3.90
	多職種チームのマネジメント	3.95	3.94
	人材を育てるマネジメント	3.91	3.97
資源管理Ⅱ	経営資源と管理の実際	3.81	3.97
	看護管理における情報管理	3.84	3.97
質管理Ⅱ	看護サービスの質保証	3.53	3.64
	安全管理	3.91	3.94
統合演習Ⅱ	演習	3.97	3.97
	実習	3.69	3.78

8. まとめ

受講者 32 名で開講した。施設実習 1 日を除く開講 30 日間のうち、11 日間は対面授業で行った。新型コロナウイルス感染状況を考慮し、自宅待機者などへ不利益がないよう、Zoom を利用したハイブリッド形式の授業を行った。オンライン形式の授業も支障なく実施することができた。

受講者職位別では、2021 年度と比べると「部長・総師長」「副部長・次長」の割合が約半数に減少し、「主任・副師長・係長」が 28.1%と 1.8 倍となっていた。2021 年度は、前年が休講となったこともあり部長、副部長等の受講が多かったと考えられるが、本年度は主任等の職位にあたる受講者が増加していた。看護管理に関心を持ち受講した人が増えたと考えられる。

受講者の評価では、最も理解度が高い教科目は「人材管理Ⅱ」、活用度が高いのは「資源管理Ⅱ」だった。受講者は人材育成、人材活用や、経営資源、情報管理に関連する問題を抱えていることが多く、講義内容を今後の課題解決に向けて効果的に反映できると考える。評価が低い教科目についても、研修中の振り返りでは、看護管理の基となる教科目について学ぶ必要性を理解できていた。統合演習Ⅱでは、時間をかけて分析を行い、特に演習支援者、グループメンバーとのディスカッションも回を重ねるごとに充実してきた。問題分析、課題解決のための計画立案も具体的な内容へ変化し、「組織管理論Ⅱ」の講義内容が活用できていた。実習は、感染対策を考慮し今年度も自施設で代替実習を行った。評価は前年よりも高くなっており、地域連携での自身の役割について具体的に学び、課題解決について実践につなげることができると考える。次年度は、施設間の相互理解を深め視野を広げることができるよう他施設実習を再開する予定としている。

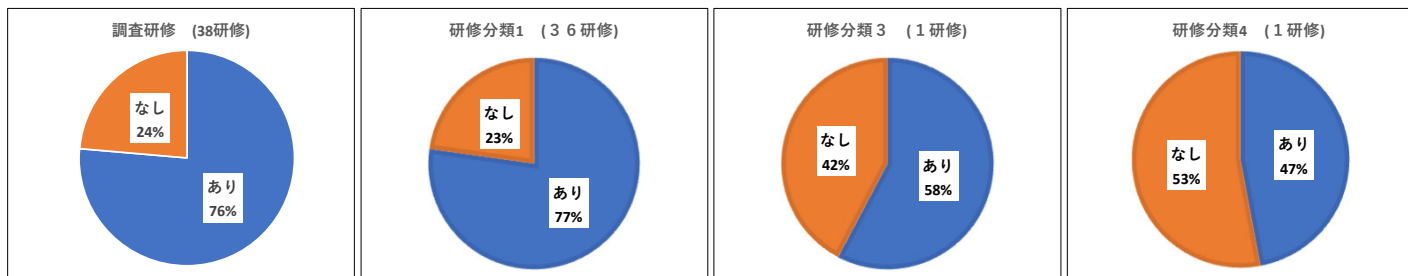
受講者が、研修後のモチベーションを維持することができ看護管理過程を展開できるように、フォローアップとして看護管理実践報告会につなげていく。

I. クリニカルラダー活用の実態 ～2022年度研修受講者終了アンケートより～

1. 期間: 2022年7月～2023年2月
2. 調査方法: 2022年度研修会受講者アンケート活用
3. 調査研修数: 一般研修38研修 (研修分類1:36研修、研修分類3:1研修、研修分類4:1研修)
4. 回答者: 1259人
5. アンケート結果

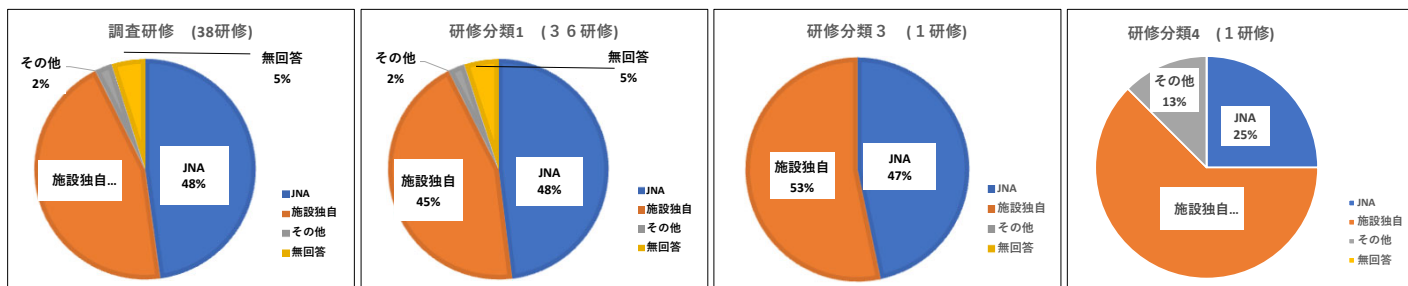
1. 施設でのクリニカルラダー活用の有無について

	調査研修 (38研修)	研修分類1 (36研修)	研修分類3 (1研修)	研修分類4 (1研修)
あり	962	939	15	8
なし	297	277	11	9



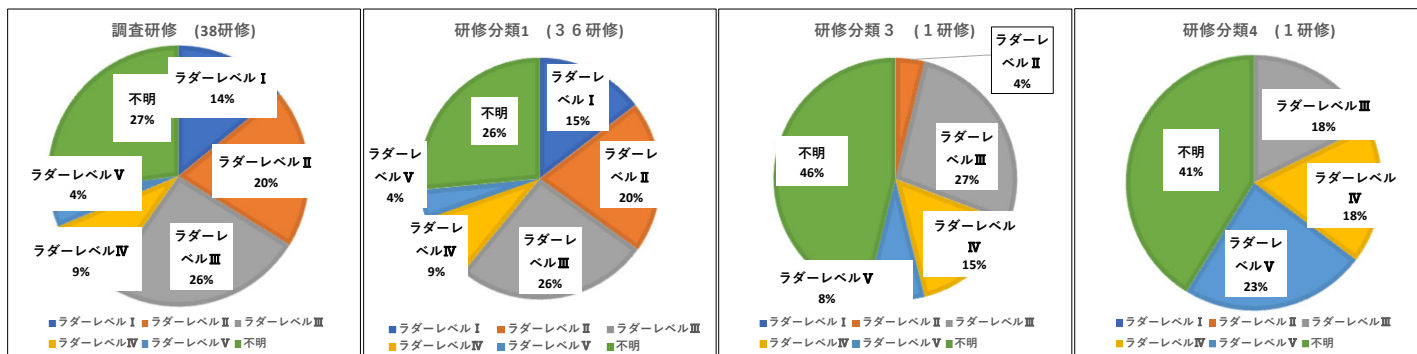
2. 活用しているラダーの種類

	調査研修 (38研修)	研修分類1 (36研修)	研修分類3 (1研修)	研修分類4 (1研修)
JNA	459	450	7	2
施設独自	430	417	8	5
その他	24	23	0	1
無回答	47	47	0	0



3. 自身のラダーレベル

	調査研修 (38研修)	研修分類1 (36研修)	研修分類3 (1研修)	研修分類4 (1研修)
ラダーレベル I	177	177	0	0
ラダーレベル II	249	248	1	0
ラダーレベル III	326	316	7	3
ラダーレベル IV	113	106	4	3
ラダーレベル V	53	47	2	4
不明	341	322	12	7



- 1 研修受講者施設のクリニカルラダーは、76%が活用していた。研修分類1においては、75%と活用が進んでいるが、研修分類4においては50%に満たなかった。
- 2 活用しているラダーは、JNAラダーと施設独自ラダーでほぼ50%の割合であった。
- 3 自身のラダーレベルでは、提示したラダーレベルに対して、受講者自身のレベルの相違ほとんど見られなかった。受講者は、提示しているラダーレベルを少なからず参考にし、受講の決定をしていることが伺える。しかし、自身のラダーが不明と答えているかは、27-46%を占めている。
自身のラダーは、看護実践能力の習熟度を理解し、不足しているところ、研鑽すべきところを明らかにし、自身のキャリアに繋げていくことが、生涯学習につながる。どの地域どの施設にいても、自身のラダーレベルで活躍し対象に寄り添った看護の提供を考えるならば、ラダー浸透はどの施設にも必要となる。
研修分類3研修の外来看護での自身のラダーレベルは不明と半数が答えている。地域包括ケアが浸透している中、外来看護の重要性と外来看護師に求められる役割は多岐にわたってくる。中小規模施設へのラダー活用が増えることの方策として、現在の実態調査を継続し、ラダー活用が50%から75%に上昇することを目指したい。
また、JNAラダー活用研修については、導入編、自施設ラダー作成計画編と数日研修等の企画で丁寧に提供していくことが求められている。